

Title	旧鈔本趙注孟子校記(二)
Sub Title	
Author	高橋, 智(Takahashi, Satoshi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1991
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.26 (1991.) ,p.145- 207
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000026-0145

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

旧鈔本趙注孟子校記(二)

高橋智

引 抛 各 本 略 解

京大本

京都大学附属図書館蔵 孟子一四卷 漢趙〔岐〕注 清原
宣賢写 清原秀賢・清原宣条校合書入 七冊

奉書紙を用いたくるみ表紙(二七・二×二〇・三糎)の上から
仮綴にする。袋綴。第一、二、四、六冊には、奉書紙が原表紙
の如く一冊の前後に綴込まれており、くるみ表紙が後補表紙の
如くその外側を包む。

ここでは、便宜上、それぞれ内表紙外表紙と称して区別する

こととする。

その内外表紙には、清原家博士の秀賢(天正三年〓一五七五
〓慶長一九年〓一六一四)と宣条(享保五年〓一七二〇〓寛政
三年〓一七九一)の筆蹟と思われる外題が墨書される。

ここにそれを記せば左の如し。

第一冊

(外表紙)右下「共七」(清原秀賢カ)

中央「孟子 梁惠王上下 一」(右に同筆)

(内表紙)中央「梁惠王上下／諸経通義 一」(清原宣条カ)

第二冊

(外表紙)右下「共七」(清原秀賢カ)

中央「孟子 公孫丑上下 二」(右に同筆)

(内表紙)中央「公孫丑上下／諸経通義 二」(清原宣条カ)

第三冊

(外表紙)右下「共七」(清原秀賢カ)

中央「孟子 滕文公上下 三」(右に同筆)

第四冊

(外表紙)右下「共七」(清原秀賢カ)

中央「孟子 離婁上下 四」(右に同筆)

(内表紙)中央「離婁上下／諸経通義 四」(清原宣条カ)

第五冊

(外表紙)右下「共七」(清原秀賢カ)

中央「孟子 万章上下 五」(右に同筆)

第六冊

(外表紙)右下「共七」(清原秀賢カ)

中央「孟子 告子上下 六」(右に同筆)

(内表紙)中央「告子上下／諸経通義 六」(清原宣条カ)

第七冊

(外表紙)右下「共七」(清原秀賢カ)

中央「孟子 尽心上下 七」(右に同筆)

料紙は斐楮交漉紙。四周单边(二〇・三×一七・一糎)有界
每半葉七行一四字注小字双行。柱に「孟幾(巻数) 丁付(各
巻ごと)」。 「題辭」六丁、巻一は二三丁、巻二は二七丁、巻三
は二六丁、巻四は二三丁、巻五は二五丁、巻六は二三丁、巻七
は二四丁、巻八は二三丁、巻九は二三丁、巻一〇は二三丁、巻
一一は二四丁、巻一二は二五丁、巻一三は二六丁、巻一四は二
八丁。

また、巻一を除く各巻首右下に自筆にて「宣賢」と署名する。
序首にも同じ署名があったようであるが、塗沫してある。

印記は、「□蘭亭」(刻、序首と巻一以外の各巻首) 「宣条」

(陽、序首と巻一と巻六と巻一四を除く各巻首) 「東」(刻、序首
と巻一を除く各巻首)。

本文は、「題辭」、「篇叙」とともに全て清原宣賢(文明七年
一一四七五く天文一九年一一五五〇)の一筆になる。

本文中に加えられた書き入れは、朱のヲコト点・句点・合点、
墨の返り点・送りがな・附訓・縦点、更に藍筆の合点がある。

その、朱墨の殆どは清原宣賢の自筆に係るものであり、藍筆は何人のものか明らかではない。

また、本文行間に施された他本との校合は、宣賢以後の秀賢、宣条それぞれによるものと見て取ることが出来る。

本校異中には、その校合の軌跡を辿るべく、秀賢のそれには※印、宣条のそれには◎印をもって表記区別した。いずれとも判断できぬものは、暫く無印をもって記す。

欄外に多く(本文行間にも散見する)加えられた、主に補解や音注等の書き入れは、秀賢によるもの最も多く、宣条のものこれにつぐ。宣賢の手は無きが如し。

後に示す奥書に拠っても明らかな如く、本書は、清原宣賢が校訂した手写本に、慶長年間に秀賢が、寛政年間に宣条が、いづれも明経博士として「孟子」講説にあたる際に、読習加筆したものである。

本文は、「孟子題辞」「章題注」「章指」「孟子篇叙」と、趙岐注の全てを備える完璧なテキストで、刊本も含めて、現存本中最も精審なものとするべきである。

なお、本書は重要文化財に指定されており、該館の格別の御配慮によって閲覧を許されたもので、保存上、未だ充分なる調

査にはいたれなかつたことを御了解いただきたい。

奥書は卷八寛政二年のものが宣条の、卷一三慶長のものが秀賢の、それ以外は全て宣賢の自筆によるもので、左の如し。

(卷一) 以摺本書写之加朱墨訖 少納言清原(花押)

永正十三年十月十七日於 親王御方講尺申了

宣賢ノ 同廿一日 同廿七日 三ヶ度申了

享祿三年 於登州畠山左衛門佐義総亭講之

享祿五年七月十一日十二日十三日於若州小浜

栖雲寺玉首座 竹田會弟講之

天文一五年四月 於越前国一乗谷講之三ヶ度

宣賢二二一一一一

(卷二) 以摺本書写之加朱墨了 少納言清原(花押)

永正十三年十一月七日於 親王御方講説申了

宣賢ノ 同十三日 申終了

享祿五年七月十六日於若州栖雲寺竹田會弟朝暮

兩度講之

天文一五年五月三ヶ度講之於越前国一乗谷

宣賢二二一一一一

(卷三) 以摺本書写之加朱墨了 少納言清原(花押)

宣賢一一一一一

(卷四) 以摺本書写之加朱墨了 少納言清原(花押)

永正十三年十二月十五日於親王御方講申了

宣賢ノ 同十七日講申兩度相終

宣賢一一一一一

享祿五年七月十八日十九日於若州小浜栖雲寺竹

田舎弟兩度講之

天文十五年六月一日四日於越州一乘谷講之

(卷五) 以摺本書写之加朱墨了 少納言清原(花押)

永正十四年三月七日於親王御方講申訖

同十四日申終之

宣賢

享祿五年七月十九日廿日於若州栖雲寺講之

天文十五年於越前国一乘谷講六月・九月廿三日 三ヶ度

宣賢一一一一一

(卷六) 以摺本書写之加朱墨了 少納言清原(花押)

永正十四年三月廿日於親王御方講尺申了

宣賢ノ 五月十七日申終之 兩度

享祿五年七月廿二日廿三日於若州小浜栖雲寺竹

田舎弟講之

天文十五年九月廿四日廿五日 於越州一乘谷

講之

宣賢一一一一一

(卷七) 以摺本書写之加朱墨了 少納言宣賢(花押)

永正十四年五月廿三日於 親王御方講說申訖

宣賢ノ 六月二日申終了

享祿五年七月廿四日廿五日於若州小浜於栖雲寺

竹田弟講之

宣賢一一一一一

(卷八) 以摺本書写之加朱墨了 少納言清原(花押)

永正十四年七月一日於 親王御方講尺申了

宣賢ノ 同廿一日申終之 兩度

享祿五年七月廿六日廿七日於若州小浜栖雲寺竹

田弟講之

天文一六年三月〔六〕日九日於越州一乘谷講之 興雲

軒発起

宣賢一一一一一

寛政二年三月十七日於岡崎聖護院候ノ皇宮侍講

此卒業迄 (花押)

(卷九) 以摺本書写之加朱墨訖 少納言清原(花押)

永正十四年九月十六日於親王御方講積申了

(卷十) 以唐本書写之加朱墨訖 少納言清原(花押)

宣賢ノ 同廿日申終之

永正十四年八月十四日於親王御方講尺申了

天文元年八月六日七日於若州栖雲寺竹田弟講之

宣賢ノ 同十七日申終之

天文十六年三月廿二日廿三日於越州一乘谷講之

宣賢一一一一

宣賢一一一一 秀賢(慶長十二年十月廿五日廿七)日於今出川新宅講之類(空)發起

(卷十二) 以摺本書写之加朱墨了 少納言清原(花押)

(卷十四) 永正九年十一月九日 親王御方御文字讀以他本

永正十四年八月廿一日於親王御方講尺申了

奉授之今日全部令終其功給者也 宣賢

宣賢ノ 廿七日申終之

以摺本書写之加朱墨訖 少納言清原(花押)

天文元年八月二日三日於若州小浜栖雲寺講之

永正十四年十月二日於 親王御方講尺申了

天文十六年三月十七日十八日於越州一乘谷講之

宣賢ノ 同十月廿一日申終者也

宣賢一一一一

以他本三ヶ度講說了 宣賢

(卷十二) 以摺本書写加朱墨了 少納言清原(花押)

宣賢一一一一

永正十四年八月卅日於親王御方講尺申了

天文元年八月八日九日於若州小浜竹田舍弟講之

宣賢ノ 同五日申終者也

天文十六年三月廿六日廿八日於越州一乘谷講之

天文元年八月四日五日於若州小浜栖雲寺竹田舍發起

(篇叙) 御奥書如斯

弟講之

孟子篇叙人之本無之仍先達等未加點又不讀

天文十六年三月十九日廿日於越州一乘谷講之

之余至德三歲講談之次以僻案ノ加點本經點

宣賢一一一一

多以違義理之間又以改正之而已 藏水軒文

(卷十三) 以摺本書写之加朱墨了 少納言清原(花押)

翁良ノ

嘉吉元年八月廿五日以前曾祖父之御説授嫡男
主水正兼直講宗^賢此本御奥／書如斯可為証
本矣
環卒^忠軒言翁業^忠

天理本

天理図書館藏 孟子存卷一至一〇 漢趙〔岐〕注 天正一
九年至二〇年写（快真） 清家本 五冊

薄茶色艶出表紙（二六・五×一九・七糎）。袋綴。包背装。第
一冊表紙左肩に本文と異筆の書外題「孟子 一之二」。第二冊
から第五冊まで同じく表紙左肩に本文と同筆の書外題「孟子
三之四（以下九之十まで）。」料紙は斐楮交漉紙。遊紙一丁。

「有不／為齋」^陽（刻）印記毎冊首にあり。

四周单边（二一×一五・九糎）無界每半葉七行一六字注小字
双行。題辭六丁、卷一は二〇丁、卷二は二四丁、卷三は三三丁、
以下二〇丁、二三丁、二〇丁、二二丁、二〇丁、二二丁、二〇
丁。本文中、「章題注」、「章指」を有し、書写は全て一筆にて
なされる。

本文中に、墨の返り点・送りがな・縦点・声点・附訓・解注
・音注を加え、朱にて句読・ヲコト点を施す。この加点は、本
文同筆のものと、ややそれより時代を下るものが含まれる。

本文以外には、第一冊表紙裏に「孟子題辭」の孫奭の疏を墨書
（本文と同筆カ）し、匡郭外に「正義」（即ち孫奭疏）「集注」
（即ち朱熹注）などを援引して墨にて書き入れる。

また、第一冊表紙裏に貼紙があり、後人の筆（第一冊表紙書
外題と同筆）によつて、「孟子写本全五冊／冊末に快興写ト有
之／快興ト有之ハ／清水家先代ノ内ニモ可有之／新薬師寺之住
職之者歟」と墨書する。

奥書は左記の通り。

（卷一） 文龜癸亥中呂甲子披覽之処両点凡無子細者哉深
納函底敢勿出闕外矣 侍従三位入道常益

以累家秘本書写之加朱墨訖為後葉申請家君御

証明而已

給事中宣賢判

宣賢一一一

天正十九年^{辛卯}七月廿二日書写訖

（卷二）

以累家秘本書写之加朱墨訖為後葉於一之卷申家
君／御証明而已

天正十九年^{辛卯}八月十九日書写訖快真六十二

快興

慶長十九甲寅三月吉旦 始見之

天正二十年壬辰三月廿四日書写之畢 快興

(卷三) 以累家秘本書写之加朱墨訖為後葉於一之卷申／

(卷九) 以累家秘本書写之加朱墨訖為後鑑於一之卷申家

請家君御証明而 給事中清原判

君御奥書者也 給事中清原判

宣賢一一

宣賢一一

天正十九年卯五月廿七日 書写訖

(卷四) 以累家秘本書写之加朱墨訖為後葉於一之卷申請

天正貳拾年壬辰五月廿八日 書写訖

家君御／証明而已

(卷十) 以累代秘本書写之

宣賢一

天正十九年卯六月十八日 書写訖 快興

天正貳拾年壬辰六月八日 書写訖六五

(卷五) 以累家秘説加朱墨記

快興

清給事中宣賢判

天正廿年壬辰卯月廿三日書写訖

これらの奥書は、卷二・卷四・卷六・卷八・卷一〇にみられる「快興」の署名と、卷二にみえる「慶長一九甲寅三月吉旦始見之」と、その他のものとの三筆に区別することができる。

(卷六) 以家伝加朱墨兩点記

清原宣賢判

つまり、本文の成立由来を鑑みるならば、清家の元奥書と、

天正廿年壬辰五月十一日書写訖 快興

天正年間の快真の奥書が、本文と同筆であることから、天正一

(卷七) 以累家秘本書写之加朱墨訖

給事中清原判

九年五月から天正二〇年にかけて、清家伝来の本文、並びに訓を快真が移写し、また一部快真が自説を書き入れ加えたものと考えるのが妥当である。

天正廿年壬辰二月廿八日書写訖了

(卷八) 以累家秘本書写之

おそらくは、卷一四末に鈔写の由来等明記せる跋文もあった

ものかと想像されるが、失われた今は、習熟した原本考察に依拠するの他はない。

問題は、「快興」の署名と、慶長一九年の奥書を、どう関連づけて解釈するか、である。

「快興」の署名は、また、本文の字に良く似た風格を持ち、例えば巻一の一六葉表にみえる本文「快」「興」のそれぞれの字と比するならば、近似の感を抱かしむるものがあり、快興が本文の書写に与ったのではないか、との推測もむべに否定することはできない。

しかし、快真と快興が、具体的にいかなる関係にあったのかは詳らかにし得ぬものの、いずれ、極めて親しい間柄（例えば兄弟弟子の如き）にあったことは充分に考えられることである。そして、親密な関係にある者同志の字風が似ることは、また、多々みられる芸林の茶飯事でもある。

したがって、快真の書写読習の後、この本を受伝、所持した快興が、各冊の末尾に、所持また読畢の意を込めて署名した、と考えるのが自然である。

その際、快興の受伝が何時頃の事であるかを判断する材料はない。「慶長一九年甲寅三月吉且始見之」という奥書が、この

事と関連するかどうかは、判断が極めてむづかしい。

ただ、天正二〇年から慶長一九年までは二三年の間があるのみで、快興の受伝、若しくは読習が、この時まで下るであろうという可能性もなしとしない。事実、本文中に附された加点の跡には、天正二〇年の本文書写時をやや下ると思われるものが散見することをあい考えれば、慶長一九年以前には、確実に快興の読習の跡を迎ることができ、これ以後にも、若し快興ではなくとも、また別人によって読習がなされたとみることができるのである。

いづれにせよ、慶長一九年の奥書が快興の手であると断定はできないが、この奥書を、この頃に行なわれたテキストの受伝並びに、本文への書き入れの次第を探る目安と考えて支障はなからう。

表紙裏の貼紙に快興は新薬師寺の住職かも知れぬ旨があるが、未だ明らかでない。快真は、清原宣賢講「日本書紀神代卷抄」（京大清家文庫・竜谷大学図書館）奥書に「慶尊坊快真」とみえるのと同人物か。清家との具体的な関係など、明らかにされるべきことが残されている。

なお、以上の調査は、「天理図書館稀書目録」並びに平澤五

郎教授の所説に依っている。

「孟子受容史の研究」所載。

東急本

大東急記念文庫蔵 纂図互註孟子一四卷 漢趙〔岐〕注

宋孫〔爽〕音義 〔室町〕写 清家本 七冊

後補淡香色表紙(二四・二×一九・七糎)。各冊に「孟子一(七)」と打付書きあり。また、各冊首に遊紙一丁あり。袋綴。料紙は斐楮交漉紙。数次の裏打補修が加わる。無辺無界每半葉八行一五字注小字双行毎行二〇字内外。字面高さ約二二糎。所々、書のうに丁数を墨書する。「孟子題辭」一〇丁、卷一は一七丁、卷二は二二丁、卷三は二〇丁、卷四は一七丁、卷五は一九丁、卷六は一九丁、卷七は一八丁、卷八は一八丁、卷九は一八丁、卷一〇は一八丁、卷一一は一八丁、卷一二は一九丁、卷一三は二〇丁、卷一四は一八丁。

各冊首に「船橋蔵書」(陽)、更に第二冊首には「清原」(陽)

「秀ノ相」(陽)印記あり。清原秀相は慶長五年(一六〇〇)生、

正保四年(一六四七)卒。清原秀賢の男。

本文は、卷九の第一七丁第一八丁が江戸中期頃に後人によって補写されるのを除いては、通して一筆にて書写される。「章

題注」「章指」を備う。但し、卷二梁惠王下篇「齊宣王問曰人

皆謂我」章から「滕文公問曰齊人將」章までの二〇章と、卷三

・卷一四については、「章指」を欠き、本文とは異なる手によ

って補われている。或は校点の際に加筆されたものか。

また、音注、重言、重意、互註を附す。重言、重意、互註は、

「校異(一)」に示した養安院本に附されるものと出入があつて同

一ではない。写本成立時に取捨撰択されたものか、また底本の

違いに由るものか、いずれであるかは詳らかでない。

重言は、卷一に三箇条、卷二に二三箇条、卷三に一箇条、卷四に一箇条、卷六に二三箇条、卷七に一九箇条、卷八に七箇条、卷九に一六箇条、卷一〇に一一箇条、卷一一に八箇条、卷一二に一二箇条、卷一三に一四箇条。重意は、卷三に一箇条、卷六に三箇条、卷七に二箇条。互註は、卷五に一箇条、卷六に三箇条、卷七に七箇条みえる。

本文中への朱墨の書き入れは、全て本文とは異筆である。

墨筆のものについては、返点・送りがな・附訓・縦点・校合

があり、奥書によつても知られる如く、文龜三年(一五〇三)

に加点されたものが、大部分であることが、その奥書との筆跡の相似によつて認定できる。そして、その文龜の奥書と同一手

であろう墨筆以外に、薄墨による書き入れがまた少なくなき、
文亀よりもかなり時代が下るものと推測される。

更におそらくは、それ以外の手も加わっていることと思われるが、これらを正確に弁別することは非常に困難である。

いずれにせよ、異本との校合の跡は、ほぼ文亀三年に加えられた一筆とみてよく、他筆も含まれる可能性を踏まえて識別を試みるのは不可能であると判断した。

朱筆の書き入れは、句点・ヲト点・合点・縦点・返り点・送りがな・附訓・音注・声点・校合がその子細で、初次の墨筆による加点よりも時代が下るように思われる。

というのも、かなり古い時代に既に裏打修補がなされて居り、その修補後に墨にて補写加筆し、更に朱が添えられている箇所を散見することができるからである。

異本との校合が少なくなき、校異中には、・印をもって朱筆であることを示した。

各巻の首に、校訂を了えた旨の識語があり、各巻の末には、やはり校訂後に識された奥書が、ともに同筆にて書写される。後に墨抹されるなど、惜しくも全貌を窺うことはできぬが、以下に記す通りである。

×印は、墨抹されることを意味する。

各巻首校語

第一冊 第五冊

(巻二) 一校了 (巻九) 一校 ○△環

第二冊 (巻三) 一校了 (巻一〇) 一校 ○(朱)

(巻四) 一校 第六冊

第三冊 (巻五) 一校+重一校 (巻一二) 一校 △

(巻六) 一校 一重校 句切

第四冊 (巻七) 一校注重一校 (巻一三) 一校

(巻八) ○△環 句切

一校注重一校 句切 (巻一四) 句切

奥書 (巻一) 文亀三 二 廿一以家本令直点訖

(巻二) 文亀三 二 廿一以家本令直点訖

(コノ後ニ尾題アリ尾題後紙ヲ切り取ル)

奥書

一校了

一校了

一校了

一校了

××××××××

(卷三) 一校了

文龜三 二 廿三以家本令直点訖

××××××××

(卷四) 文龜三 二 廿四令直点訖

一校了

明応第三初春後五日××××××

××××××

××××××××

(卷五) 一校了 重一校

文龜三 二 廿五令直点訖

(卷六) 文龜三 二 廿六令改点訖

一校了 重校

(卷八) 一校了^注 重校

句切

文龜三 二 廿八令直点訖

(卷九) 文龜二 三 一令直点

一校

(卷一〇) 一校

文龜三 三 一令直点

(卷一一) 一校

(卷一二) 一校

(卷一三) 一校

卷一は、この奥書の後に尾題があり、尾題後、紙が切り取られ、おそらく署名が削去せられたものであろう。卷五も同様。卷三の奥書が書写される葉の裏葉左下に、「外史著作 処／賢好花」と書写、奥書とは別筆である。卷七は、本文末尾の後は破去される。その後、裏打が加えられ、数次の裏打の、初期の裏打紙(すなわち本文末尾裏葉左下)に「賢□」と墨書され、卷三の賢好の署名と同筆である。卷一四は、奥書がない。さて、以上の奥書を見るに、各巻首の校語と文龜三年の奥書は、清原宣賢の筆に相似、「大東急記念文庫貴重書解題漢籍編」に記される如く、卷八、九、一一の巻首に「環」とおぼしき署名があることも考えあわせれば、それは妥当性がある。そこで、卷四の「明応第三……」の奥書をどうみるかが問題となる。

稿者は、本文とも、文龜三年の奥書とも異筆であるとみたが、これについて阿部隆一博士は次の如く論じられた。

「各巻末には本文と異筆で、ほど同文の校合加定の識語があり、それによれば文龜三年の二月から三月にかけて、校合を加え、「以家本令直点訖」というのである。この校定の識語の字は宣賢の筆と思われ、訓点や書入の筆跡も宣賢の若書きで、宣賢が校定をなしたものである。巻四の末に「明応第三初春後五日……」以下墨抹して識読し難い奥書を有するが、此は書写奥書であろうか。この明応云々の字は、京大清原文庫蔵「孝経述議」巻一（「明応六年六月日藏人宣賢贈之」の識語あり）の前半の筆蹟と同筆で宣賢の若書きの如く思える。」（「斯道文庫論集」第三輯五六頁）

博士によれば、文龜三年の奥書並びに本文中への校定は、宣賢自筆で、本文とは別筆、ただ、明応の奥書が宣賢自筆の可能性なきにしもあらず、とされる。

ただ、本文が宣賢とは別筆であることと、明応の奥書が宣賢自筆でしかも書写奥書であることは矛盾するから、若し、明応の奥書が宣賢の若書きであるとするならば、言い伝えられた書写年月を加筆したか、読了や受伝の次第を記した識語の類で

あると解するのが適當であろう。そしてその際には、本文書写は宣賢に近い関係の人物によるものであることが推測されよう。

このことは、明応の奥書が宣賢ならず別人の手になるものであっても、同様である。

いずれにせよ、明応の奥書は、本文の書写や校定の年代推定の確とした根拠には、いまのところなりにくいと言える。

このように、家相伝のテキストには、多々かくの如き複雑で明らかにし難い経緯を含むものであり、清原家はその筆頭、確実に原本に照らして断定できる事実のみに拠って、後世を誤らしめぬよう注意せねばならない。

本書は、室町の写本たるは疑いなく、清原宣賢校点カとしておく。なおもって今後の精密な調査を期す所存である。

以上は平澤五郎教授の御教指に拠る。

また本書は、底本たる「纂図互註孟子」が中国に佚した所謂佚存書に属し、今伝わらぬ宋版の存在を知らしめる極めて価値ある一本と言わねばならない。

「大東急記念文庫貴重書解題漢籍編」収載。「孟子受容史の研究」所録。

東洋本

東洋文庫蔵 孟子一四卷 単経趙注本 永禄一〇年写(積

聖信) 清家本 一帖

薄茶色打曇表紙(一五・五×一六・五糎)。この種のものには少ない升型の書型である。綴葉装。料紙斐紙。無辺無界每半葉一二行一五字。字面高さ約一二・五糎。「題辞」から卷一四まで凡て一〇四丁。

趙注本に拠った単経本で、趙岐注なく、本文は通して一筆である。

本文中に、墨筆にて返り点・送りがな・縦点・附訓・音合符が加えられる。そして、その墨筆の殆んどは、本文と同筆である。一部、うす墨のものは、墨筆の書き入れとほぼ時期を同じうするが、同筆ではない。

一方、本文中に、朱筆にて句点・ヲコト点^ヲが加えられ、それは、本文と同時期のものである。

卷一四の尾題の後に、清原業賢(官賢の長子)の元奥書があり、続いて、積聖信の手跋がある。左の如し。

御本云
蒙 仰業賢以家伝全部点進之秘説

無所脱漏矣

天文癸卯南呂初二 侍従三位入道宗友

右全部者以高辻長雅卿本於仁和寺写之尤可證本者也

秘蔵々々

于時永禄^{丁卯}年五月六日 聖信^{春秋廿四歳}

元奥書の意味するところは、天文一二年(一五四三)八月に清原業賢(明応八年||一四九九)永禄九年||一五六六、宗友は道号)が命を受けて、家伝のテキストを移録移点したと言うことである。

そして、積聖信の手跋の意味するところは、永禄一〇年五月六日に、仁和寺に於いて、高辻長雅(永正一二年||一五一五)天正八年||一五八〇)の本に拠って移写したということである。積聖信は、天文一八年||一五四九生、天正二〇年||一五九二没。勸修寺第二八代長吏。

問題は、業賢が書写した一本が、高辻長雅の所持していた一本と、同一本であるか否かであるが、いずれとも断定する根拠がなく、長雅卿の一本が、業賢書写本の更なる転写本である可能性も否めない。

「岩崎文庫貴重書書誌解題I」所載。「孟子受容史の研究」

所載。

附記 釈聖信については、続群書類従勸修寺長吏次第によつた。

成篋堂本

石川文化事業財団お茶の水図書館蔵 音注孟子存卷一一

至一四 漢趙〔岐〕注 闕名音義 〔室町後期〕写 一冊

茶褐色表紙(二六・七×二〇・六糎)。袋綴。料紙は楮紙。四周单边(一八・九×一六・九糎)無界、每半葉二行二〇字注小字双行。上層四・八糎。卷一は一二丁、卷二は二二丁、卷三は二三丁、卷四は二三丁。

本文は、「章題注」、「章指」を有し、一筆にて書写される。

「蘇／峰」(陰刻)「白水書館」(陽刻)「□□山／書院記」(陽刻)「□□古堂／図書記」(陽刻)の印記あり。

本文中に、返り点・送りがな・縦点・附訓・声点が墨筆によって加えられる。本文の書写年代と同時か、またはそれよりやや下ると思われる時期のもので、本文とは異筆である。

また、朱筆によって本文中に施された句点とヲコト点は、本文書写時より時代がやや下がるが、墨筆の書き入れと同筆か否かは判断できない。

上層における書き入れは、本文中に施された墨筆の書き入れと同筆であり、音注や補注をその内容とする。卷一三首の上層に「朱七」と墨書するのをみれば、朱熹集注本をもって校読したという跡を知ることができる。

「成篋堂善本書目」所載。

足利本

足利学校遺跡図書館蔵 孟子存卷一至四漢趙〔岐〕注 〔室

町後期〕写 二冊

後補淡香色表紙(二七×一八・一糎)。双边刷梓題簽に「孟子趙注 上(下)」と墨書する。次に、本文共紙の原表紙があり、第一冊右上に「履」と朱書、第二冊には「写本孟子欠本／二冊」と中央に墨書が、いずれも後人によってなされている。袋綴。料紙は斐楮交漉紙。全紙に、総裏打を加える。

四周单边(一八×一三・三糎)有界、每半葉九行二〇字注小字双行。上層四糎。「趙氏孟子題辭」四丁、卷一は二三丁、卷二は一五丁、卷三は一五丁、卷四は一四丁。本文は「章題注」、「章指」を有し、一筆。

朱筆によって本文中に、句点・朱引(一、〇)・声点・附訓等を加える。本文書写時よりも時代が下がり、他の墨筆による

書き入れと、ほぼ同時期とみてよい。本文とは別筆であり、墨筆の書き入れとは同筆のものと別筆のものがあり、一筆ではない。

墨筆による書き入れは、数手に分別され、いずれも本文より時代が下る。返り点・送りがな・縦点・附訓・音注・解注校字を本文中に、また本文の内容に関する補注を上層と欄外の余白に書写する。

最も周密であるのは、やや右下がりの一手であり、上層に頻繁に「新注」(朱熹注)を引用する。何人によるものかは詳らかにしない。

もう一手明らかにし得るものが、足利学校第九世庠主三要(閑室和尚、諱元信、一名三要、天文一七年〓一五四八〓慶長一七年〓一六一二〓)の自筆書き入れであり、朱墨両筆にて加えられるもの。その内容は、「近注」(朱熹注)、「正義」(孫奭疏)、「蒙引」(明蔡清「四書蒙引」)、「大全」(明胡広等「四書大全」)の適宜引用と、「要云」として述べる自説が主なもので、字句の校合も行なわれている。以上が墨筆によるもので、更に、「月」「花」「雪」「双」「甲」などの何らかの意味を持つ記号的なものも附記が、朱筆によってなされる。

なお、本文字句の校合について、三要の自筆と認め得べきものには、校異中、「※」の印をもってそれを明確にした。

三要の、この自説についてみるならば、その内容は義理の補解が主なるもので、また、例えば、卷二梁惠王下編「齊人伐燕取之」章の、

「書曰湯一征自葛始……」
に対する趙注

「此二篇皆尚書逸篇之文也」

に対しては、

「要云此二篇ハ可作一篇作二誤也 両処引書トイヘトモ皆一章之内ノ辞也 近注ノ意ハ二ヲフタタビト見ル也」

として趙注に意見を述べる。ここに一端を見る如く、三要の自説には、古注に拘泥せず、諸注を合わせ参酌する姿勢がうかがわれ、このことはまた、ひいては室町末近世初の時代に於ける、足利学校の「孟子」の受容を探る貴重な足跡であると言えよう。更にまた、三要の書き入れには、「小板」「別本」「印本」などをを用いた校語があるのも注目に値する。

三要とは別筆にて卷一の上層に「原本恒作恒今改」等とする注記を墨にて書き入れるのもあるが、おそらくは、三要よりも

時代が後の人の手であるうが、いづれにしても「小板」や「原本」等が具体的に如何なるテキストを指すものは明らかでない。

「足利学校の研究」(川瀬一馬博士) 所載。「孟子受容史の研究」所載。

尚、以上各図書の内容調査に際しては、平澤五郎、尾崎康両先生に、解題全体にわたって平澤五郎、大沼晴暉両先生に御教指をいただいた。

また、石神秀美、湯浅吉美両氏にも御助言を得た。

更に、貴重なる原本の実査に御理解をたまわった所蔵諸機関、並びに御担当の諸先生よりいただいた恩恵と阿部隆一博士の遺業とに、以上併せて伏して謝意を表する次第である。

旧鈔本趙注孟子校記(二)

凡 例

- 一、本校記(一)の各項に示すところに拠る。
- 一、校異中、京大本について、「※」の印は清原秀賢の校合を示し、(者)^{※正}などは「者」・「正」ともに秀賢の筆であるの意。「◎」の印は清原宣条のそれを示す。また、足利本について、「※」の印は第九世庵主三要の校合をあらわす。
- 一、東急本の朱筆による校合を示す「・」について、「丑」^{子イ}は「子イ」のみ、「(土地之等)」は「土地之等」が、「(子思)」^{イ无}は「子思」「イ」ともに、「督趣」^{督促イ}は「督促イ」が、「菜」^{イ无}は菜のみが、朱筆であることを示す。

旧鈔本趙注孟子校記

孟子題辭 趙氏 京大本天理本東洋本無趙氏二字・足

利本作趙氏孟子題辭、無趙氏二字・東急本如左、文中附孫氏

音義。

孟子題辭○孫氏音義曰張鑑云即序也趙生尚異故不謂之序而謂之題辭也

趙氏○丁公著云案本伝名岐字邠卿京兆長陵人也初名嘉生於御史

台因字台卿後避難故改名岐少明經有才芸公府屢辟為京兆尹延篤

功曹先是岐常貶議中常侍唐珩兄玳為京兆尹岐遂避難四方無所不

歷及諸唐滅乃出仕歷并州刺史安郎後以老病就拜太常九十余建安

六年卒

爭彊 各本彊作強。墮廢 各本墮作隳。惑衆者非一 京大

本作惑(衆)者非一。進不得佐興 東急本作◎不進得佐

興。高第弟子 京大本天理本第作弟・東急本作高弟(弟_イ)

子。包羅天地 東急本地作池。七十子之疇 京大本作七十

(子)之疇。喉衿 天理本喉作唯。辯文 京大本天理本辯

作辨。不能弘深 東急本作(不)能弘深。泯絶 東急本作

◎絶泯。開延道德 京大本天理本延作筵。撫取 東急本撫

作撫。辯之者既已詳矣 京大本天理本東急本辯作辨。閑遠

東急本閑作閱、辯惑 京大本天理本東急本辯作辨。微妙緼

奧 足利本緼作緼。

孟子卷第一 趙氏注

各本篇題如左。

孟子卷第一

梁惠王章句上凡七章趙氏註

梁惠王者魏惠王也魏國名惠諡也王也王号也

孟子見梁惠王 孟子適梁魏惠王 禮請孟子見之

孟子卷第一

梁惠王章句上凡七章

梁惠王者魏惠王也魏國名惠諡也王

孟子見梁惠王 孟子適梁魏惠王 禮請孟子見之 王曰叟

纂圖互註孟子卷第一

梁惠王章句上凡七章 趙氏註

梁惠王者魏惠王也魏國名惠諡也王号也

天理本

京大本

東急本

孟子見梁惠王孟子適梁魏惠王 王曰叟不

孟子卷第一

梁惠王章句上凡七章 趙氏註

孟子見梁惠王王曰叟不遠千里而來

孟子卷第一

梁惠王章句上

趙氏注 梁惠王者魏惠王也魏國名惠諡也王

秋之時英楚之君

孟子見梁惠王孟子適梁魏惠王 王曰叟不遠千里

○梁惠王章句上

滕文公 天理本滕作駿。

○孟子見梁惠王至何必曰利

興利除害也 京大本天理本東急本也作者乎。疆兵 天理本

東急本足利本疆作強。因為王陳之 京大本天理本東急本之

下有也字 從王至 天理本從作後。君食万鍾臣食千鍾 足

利本鍾二字共作鍾。

苟為後義 京大本作苟為後(義)。

東洋本

自饜飽其欲 東急本作自饜◎其欲飽。忽後其君者 足利本者下有也字。嗟歎 東急本歎作嘆。△章指▽集穆 京大本集作輯。

○孟子見梁惠王至豈能獨樂哉

以為娛樂夸咤孟子 天理本娛作悞。亡國破家 天理本破作彼。

足利本

詩云經始 足利本云作曰。

自來趣之 足利本趣作趨。特鹿也 東急本特作特。懷任

天理本任作妊。

麋鹿魚鼈 京大本麋作麋。

古賢之君 京大本天理本東急本作古之賢君、時乙卯日也

京大本時作時。足利本時作日。台池禽獸 京大本天理本

東急本禽作鳥。不樂也 天理本無也字。

○梁惠王曰至天下之民至焉

足以笑百步止者不 足利本不作否。東急本足作是。直事不

百步耳 各本事作爭。獨望民之多 足利本獨作猶。陳王道

也 足利本作陳王道(也)。密網也 天理本網作細。密細

之網 東急本作密細(也密細)之網。使林木茂暢 京大本

天理本東急本林作材。以為宅冬入保城 各本冬作各。

無失其時 東急本作無失其時。

由字。

一夫一婦 東急本夫作先。奪其時功 東急本功作切。頒者

○梁惠王曰至請勿疑

斑也 天理本作頒者斑(白)也。東急本作頒者斑(白)也。

晋国天下強也 東急本作晋国天下(莫)強(之)也。

頭半白斑斑者也 京大本天理本作頭半白曰頒斑者負也。東

東敗於齊 東急本作(東)敗於齊。

急本作頭半白曰頒斑者負也。故斑白者不負戴也 京大本天

王念 東急本王作上。暴虐已 京大本已作以。天理本已作

理本東急本故下有曰字、戴下有於道路三字。

以。〈章指〉仁与不仁也 京大本天理本東急本不仁下有者

狗彘食人食 東洋本作(狗彘食人食)。

字。

犬彘 天理本犬作大。人食不知 京大本天理本東急本食下

○孟子見梁襄王至誰能禦之

有而字。道路之旁 京大本天理本東急本旁作傍。以用振救

王言誰 東急本言作曰。喻人象也 京大本天理本象作婦。

之也 各本振作賑。日非我殺之歲殺之他 天理本無下之字。

東急本象作象。夏之五六月 京大本天理本無之字。〈章指〉

○梁惠王曰至民飢而死也

一道而已 京大本天理本一道作仁政。東急本一道作一道。

王曰杖刃殺人 各本杖作挺。孟子欲以次喻王 各本次作政。

此之謂也 足利本無之字。

王復曰政殺人無以異也 京大本天理本東急本曰下有刃字。

○齊宣王問曰至未之有也

為率獸以食人也 京大本天理本東急本人下有者字。

然後道齊也 京大本天理本東急本齊下有之事二字。頌述

其為民父母也 東急本作其(為)民父母也。

東急本述作迷。心賤薄之 各本心作必。

虎狼食禽獸 京大本天理本東急本此五字作古者虎狼之中能

何可廢也 東急本作何(可)廢也。

常食於禽獸是人所惡今十七字、東急本此十七字之傍有校語

塗其鬣鄰 東急本鄰作鄰。墮鬣逆牲 天理本墮作隳。足利

曰虎狼食禽獸。人猶尚惡視 足利本尚作当。父母之道也

本墮作塗。王推是仁心 京大本作王推是仁(心)。

京大本天理本東急本也下有已字。本由有作備者 足利本無

編小 各本編作編。

王如痛其無罪 京大本天理本無王字。無傷於仁 足利本仁

作牛。時未見羊 京大本天理本東急本時上有王字。羊之為

牲 天理本牲作牲。以嗟歎 京大本天理本東急本歎作嘆。

王說曰詩云 足利本云作曰。

吾力足以舉 東急本作吾曰吾力。

秋豪之末 各本豪作毫。

為用恩焉 天理本作為用(恩)焉。

挾大山 各本大作太·非挾大山之大字亦同·注文大字倣此。

北海皆近 天理本北作此。

詩云刑于 足利本云作曰。

可以稱輕重也 各本無也字。凡物皆當稱度 京大本作凡物

皆(當)稱度。乃為仁心比於物 東急本作乃為(仁)心比

於物。發異端以問也 足利本問作明。安四夷者也 足利本

無者字。為大甚 各本大作太。

緣木求魚 東急本作緣◎求木魚。

其害也 東急本作其害(善)也。

敵疆 各本疆作強。

不如疆大 各本疆作強。

蓋亦反其本矣 京大本天理本東急本東洋本蓋作蓋·注文蓋字倣

此。

王道之本 京大本天理本東急本作王道之本耳。我情思悞亂

京大本天理本情作悞·東急本思作思。

因無恒心 東急本因作因。

是政何可為也 天理本作是 何可為也。

從之也輕 東急本作從之也(輕)。

△章指▽道純 天理本純作絕。相紛 東急本作相(紛)。

反正 天理本作及王。踐其路 京大本天理本東急本路作跡。

足利本路作路、有三要之校語謂跡字可也印作跡也又大板作

路。

孟子卷第一 東急本作纂△△△互註孟子卷第一。

孟子卷第二

趙氏注

梁惠王章句下 京大本天理本東洋本無趙氏注三字、梁惠王章句

下下有凡十六章·東急本孟上有纂△△△互註四字、無趙氏注三

字、梁惠王章句下下有凡十六章·足利本梁惠王章句下下有

凡十六章疑後補矣、趙氏注三字在第三行低二格。

○莊暴見孟子至同樂則王矣

有是語不 足利本不作否。王言我不能好先聖王之樂也 京

大本天理本無聖字。東急本作正^王、無聖字。何異也。天理本無也字。管箏簫簫。足利本簫作箏。若笛短而。足利本作若短笛而、傍有三要之校語謂一^二作笛短。發賦徭役。京大本天理本徭作徭。東急本徭作播。田不妨民時。東急本妨作好^妨。

○齊宣王問曰至不亦宜乎

王以為文王。京大本作王以(為)文王。西伯王地。各本王作土。方千里。天理本作方千里。

芻蕘者。東急本芻作蕘、注文芻字做此。

雉兔獵人。京大本作雉兔者獵人。民苦其小。天理本苦作若。皆有闕。天理本闕作開。

○齊宣王問曰至王之不好勇也

齊宣王問曰。東洋本作(齊宣)王問曰。

文王事混夷。京大本天理本東洋本混作昆。東急本混作昆^混。

詩云混夷。京大本天理本東急本混作昆。足利本云作曰。大

事小者也。足利本作大事小者(也)。

故大王事。東急本大作太。

彊者。東急本足利本彊作強。大王去邠。京大本大作文^大。身自官事。足利本官作臣。詩周頌我將之篇。東急本無之字。

安其大平之道。各本大作太。有疾疾於好勇。東急本下疾作在。

篤周祜。京大本足利本祜作祐。天理本東急本祜作祜。

書尚書逸篇也。東急本作(書)尚書逸篇也。天生下民為作

君。東急本作天(生)下民為作君君。民也今王好勇亦則武

王一怒而安天下之民。東急本也以下十七字後補。〈章指〉

有勇勇以。東急本作有勇(勇)以。

○齊宣王見至畜君者好君也

適情從欲。足利本從作縱。民之所憂。天理本無之字。君助

憂之。東急本作君助助憂之。孟子以是答王者。天理本無者

字。孟子言往者。東急本者作昔^者。

晏子對曰。東急本作(晏)子對曰。

助其力不足也。各本足作給。予亦遊也。東急本也下有遊亦

予也四字。得見振贍。東急本振作賑。足利本振作賑^賑。

今也不然師行。東急本師作帥。

人君興師行軍。東急本師作帥。而作慝惡也。東急本作下有

其字。放棄。足利本作○棄放。先生之命。各本生作王。驕

君之溢行也。足利本君作民。故為諸侯憂也。天理本故下又

有故字。

樂酒無厭 東急本作樂酒。厭謂之亡先生無。

遊於琅邪 足利本邪作耶。以振貧下不足者也 東急本振作

賑、下作下。足利本振作振、下作下。大師樂師也 東急本

大作太。矜夸 東急本夸作誇。足利本夸作夸。

○齊宣王問曰至於王何者

勸宣王 足利本勸下補齊字、上欄有三要之校語謂小板無齊

字別本有齊字。詩云樂爾 足利本云作曰。

詩云智矣 足利本云作曰。

言居今之世可矣 京大本天理本東急本言上有詩人二字。富

人但憐愍 東急本憐作怜。

詩云乃積 足利本云作曰。

以武備之四方啓道路 東急本啓下有行字。我有病病好色

京大本天理本東急本病病作疾疾於三字。不能行也 京大本

天理本東急本無也字。

昔日大王 東急本大作太。

詩云古公 足利本云作曰。

當是詩也 各本詩作時。

避狄難 天理本狄作秋。於其与姜女 各本其作是。王如則

与百姓 天理本則作測。皆使無過時 京大本作皆使無過

(時)。

○孟子謂齊宣王至王顧左右而言他

境內之事 京大本作境(內)之事。

○孟子見齊宣王至可以為民父母

有世臣之謂也 足利本◎世臣之謂也有。

不精心意 東急本意下有詳審之三字。尊卑親踈 京大本天

理本足利本踈作疏。核鄉原之徒 東急本作核鄉原之徒。論

曰 天理本足利本作論語曰。寔繁有徒 京大本天理本東急

本寔作寔。

○齊宣王問曰至未聞弑君也

一夫紂 東急本作一(夫)紂。

未聞弑君也 京大本天理本東洋本弑下有其字。東急本弑下補其

字。

△章指▽孟子云 足利本云作曰。以崇惡 天理本作以不崇

德。東急本欠此章指。

○孟子謂齊宣王曰至彫琢玉哉

先王之正法 足利本正法作正法。二十兩為鎰 東急本作◎

十二兩為一鎰。足利本作二十(四)兩、傍有校語謂趙岐注

無四字。詩云雕琢 足利本云作曰。教玉人治玉也 京大本

治玉也作治（玉）也。東急本作殺殺（教）玉人治玉也。

△章指▽屈人之是 京大本作屈人之善是。玉不成圭 京大本天理本足利本圭作器。（東急本）不明。

○齊人伐燕勝之至亦運而已矣

書曰歲三百 各本歲作暮。

悅則取之 東急本作悅則（取）之。

益甚則 足利本益作益^愈。奔走而去 足利本作奔（走¹）而去。

△章指▽天意得天意得 足利本作天意得（天意得）、上天字傍有三要之校語謂印ノイ本作大。

○齊人伐燕取至可及止也

湯一征 東急本征作往^征。

徯我后 東急本徯作侯。

嚮也東嚮 足利本作嚮也東嚮^向。夷服之國也 京大本東急本

服作狄。天理本服作秋。足利本服作服^{狄本※正義作服}。徯待也。

東急本徯作侯。蘇息也 足利本作蘇息也^{而已矣}。

王往而征之 東急本征作往^征。

齊疆 天理本東急本足利本疆作強。勿徙其寶 足利本勿字

傍有三要之校語謂イ無別印本有。△章指▽以小王大 京大

本天理本（東急本）作以大主小。足利本本作至。

○鄒與魯闕至其長矣

軍率也 足利本率作率^{※帥}。問其罰當謂何也 東急本何下有可字。足利本何下補則可二字[※]。

倉廩實 東急本作倉廩（實）。

以振救之 天理本振作賑。△章指▽下赴其難 京大本作下

赴（其）難。

○滕文公問曰至強為善而已矣

疆暴 各本疆作強。故避之 東急本之下有也字。自強為善法 京大本天理本無法字。△章指▽任天 足利本任作在。

○滕文公問曰至挾於斯二者

繒帛之貨也 京大本天理本東急本無也字。

去邠 東急本作（去）邠。

邑于岐山之下 天理本作（邑于岐山）之下。

先人之之所受也 各本作先人之所受也。

○魯平公將出至使子不遇哉

或尼之行止 京大本作或尼（之）行止。

臧倉小子 京大本天理本東急本子作人。

孟子卷第二 東急本作纂[△]互[△]註[△]孟子卷第二。

孟子卷第三 趙氏注

公孫丑章句上 京大本天理本東洋本無趙氏注三字、公孫丑章句

上下有凡九章·東急本孟上有纂[△]互[△]註四字、趙氏注三字後

補於第三行、公孫丑章句上下有凡九章·足利本公孫丑章句

上下有凡九章、趙氏注三字在於第三行低二格。

○公孫丑問曰至惟此時為然

子誠齊人也 京大本作(子)誠齊人也。

猶蹙蹙也 足利本蹙作蹙^{蹴イ}。

行乎國政如彼其久也 京大本作行乎國政如彼其專也^x行乎國政如

彼其久也^x。

答或人言 京大本作(或)人言。重言何曾比我 東急本作

(重)言何曾比我。恥見比之甚也 東急本比作此^比。非丑之

言小也 東急本作非丑之言(為)小也^{イ无}。

今言王若易然則 足利本作今言◎王若……足王[◎]。

文王不足法与 京大本作文王不足(法)与。

以為法邪 足利本邪作也[△]。謂大甲大戊 京大本天理本足利

本大二字作太。齊人諺言也 京大本作齊人諺言(也)。

王莫之能禦也 京大本天理本東洋本無之字。東急本之字傍有圈

点。

今齊地土民人已足矣 各本已作以。言民室屋相望 東急本

室屋作室室^{屋イナ}。誰能止之也 足利本止作已^{※止}。恩惠之事 京大

本作恩惠之事[△]。章指^x管晏雖勤 京大本天理本(東

急本)晏作嬰。

○公孫丑問曰至有盛於孔子也

丑問不動心之道 足利本作丑問不動(心)之道。

思以一豪 東急本足利本豪作毫。

若刺褐夫 東急本作若(刺)褐夫。

目不轉精逃避 京大本天理本足利本精作睛。被褐者 東急

本褐作曷。但曰舍豈能 東急本重舍字。若此畏三軍之衆

足利本此下補則字。

似子夏 東急本作似(子)夏。

孟施舍守約也 東急本無也字。

譬子夏 足利本作譬子(夏)。以不懼為約要也 東急本作

以◎懼為約要也[◎]。詩云惴惴其粟 足利本粟作慄。己内自

省 天理本作寬伝自有。不当輕驚懼之也 京大本天理本無

驚字·東急本無不字。其可否也 足利本無也字。志氣之相

動也 京大本天理本東急本無也字。

養吾浩然之氣 京大本作養吾(浩)然之氣

孟子云我聞 足利本云作曰。正直之氣也。京大本作正直之氣也。洽於神明。京大本天理本東急本洽作合。無窮極也。

東急本極下有之字。道謂陰陽大道。東急本作道（謂陰陽大道）。浩氣則心腹飢餓矣。足利本氣作然、無矣字。但以

為福。足利本但作但。芒芒罷倦之貌。京大本天理本東急本罷上有然字。反使之枯死也。東急本作反使（之）枯死也。

知其所陷邪辭知其所離遁辭知其。東急本上所以以下十二字後補。

蔽子猛也。足利本猛作孟。與申生政能知。京大本天理本東

急本生下有之字。足利本政作事。若豎牛勸仲壬。京大本天

理本東急本壬作任。足利本若上補則字。離之於叔孫也。

天理本無於字。不能如二子。東急本子作字。

夫子聖矣乎。東急本後補此五字。

吾不能我學。東急本作吾（不）能我學。

夫子既聖矣。東急本作夫子既聖矣。東洋本矣下補乎字。

四肢股肱也。足利本肢作枝、以下肢字做之。得一肢也。

東急本肢作股。可願比伯夷不。各本不作否。

非其君不事。各本此句上有曰不同道。有伯夷之行不與孔子伊尹同道也。十八字。東急

本無也字。東洋本無注十四字。

其得行道而已矣。京大本天理本東急本其作冀。東急本而已

矣作而而已。伯夷伊尹。東急本作伯（夷）伊尹。有同者邪

東急本足利本邪作耶。此二人君國。京大本足利本二作三。

亦不至於其所好。京大本天理本東急本於作阿。如使當堯舜

之処賢之遠矣。京大本天理本東急本処作世、賢上有觀於制

度四字。致大平也。京大本天理本足利本大作太。未能備若

孔子也。東急本未能作未。能。

泰山之丘垤。東急本泰作泰。

聖人之於民亦類也。東急本此八字後補。

無有者。東急本作無有（者）。盛稱之也。東急本作盛稱之

（也）。

○孟子曰以力至此之謂也

若湯文王是也。東急本作若湯。○（王）是文是也。非心服也

東急本作非心服（者）也。

詩云自西自東。足利本云作曰。

△章指▽德以懷之。京大本天理本（東急本）懷作來。

○孟子曰仁則榮至此之謂也

民安得其榮。東急本作民安（故）得其。譬若惡濕而居埤下

東急本譬若作譬若。京大本天理本東急本埤作卑。足利本若

作若、埤作埤。近水泉之地也。京大本天理本地下有者字。

東急本地下有者字。及無隣國之虞。東急本作及(其)無隣國。以是間暇之時明脩其政教。東急本作以是(而)間暇之時(明)脩其政教。必來畏服。東急本作必來畏服(之)。
詩云迨天。足利本云作曰。

詩邠國鷓鴣之篇。京大本天理本無之字。東急本後補之字。

桑土桑根也。東急本作桑土桑根(也)。尚知及。東急本作(猶)尚知及。

不自己求之者。東急本作不自己求(之)者。

且以大為樂。東急本且作自且。詩大雅文王之篇。京大本天理

本無之字。東急本後補之字。

大甲曰。各本大作太。

大甲。各本大作太。譬若高宗。東急本作(譬)若高宗。可

以德消去也。京大本作可(以)德消去也。是為不可活也

東急本活不有(故若此之謂)。

○孟子曰尊賢使能至未之有也

俊美才。東急本作俊美才才美。万人者。東急本作(勝)万人者。

衰世征之。東急本作衰世(征)之。周礼大宰京大本天理

本東急本大作太。国凶札則。天理本札作礼。

不稅則。東急本作不(稅)則。

不耕者出屋粟。各本出作有。民矣氓民也。東急本也字下有校語謂四字無イ、又此句傍有校語謂氓者乃謂其民也イ作。

天吏也。東急本作天吏也(已矣)。

○孟子曰人皆至不足以事父母

所以謂人皆有不忍人之心。天理本無之字。

未有知小子也。足利本作未有知(之)小子也。見小小孺子

東急本不重小字。情發於中。東急本作(以)情發於中。

非為其人也。東急本作非為(其)仁也。故怵惕也。東急本

作故(為之)怵惕(者而然)也。

由是觀之。東急本是作是此。

可引用之。京大本天理本足利本之作也。

猶其有四体。東急本作猶(其)有四体。

不能為善。東急本作不能為能為善。謂君不能。東急本謂作

諸。足利本君作其君。凡有端在於我。天理本有下有四字。東

急本有下有四字。知皆廓而充大。東急本知作智知。水火之始

東急本足利本作水火之始。喻人之四端。足利本喻作喻※火泉イ

事父母也。足利本作事(其)父母也。

○孟子曰矢人至反求諸己而已矣

入是仁道。京大本作入是(仁)道。何得為智乎。東急本作

(又)何(安)得為(之)智·足利本何作何。※安仁恩之未至

東急本作(之)仁恩之(有)未至(不然勝已者)八字イナ

·足利本作仁恩之(有所)未至。△章指▽治術之忌 足利

本作治術(之)忌。勿為矢人也 京大本作勿為矢(人)也※正

·天理本無人字·東急本矢人作矢(人)正·足利本人字傍有

要之校三語謂印本或有或無。

○孟子曰子路至与人為善

能改也 東急本作能改(者)也·足利本作能改(者)也。

禹拜讜言 京大本天理本讜字傍有校語謂書作昌·東急本亦

有校語謂昌^イ。大舜虞也 東急本虞下有帝字^イ·足利本作大

舜虞(帝)也。

○孟子曰伯夷至君子不由也

若將浼焉 天理本無焉字。

望望代之 京大本天理本足利本作去·東急本作望望(然)

去(之)イ。屑絮也 東急本足利本絮作潔·以下絮字倣此。

詩云不我 足利本云作曰。不忍就見也 足利本也作已。婦

西伯也 東急本作婦西伯(者)イ也·足利本作婦西伯(者)也。

爾為爾我為我 東洋本作爾為(爾)我為(我)。

袒裼裸裎於我 京大本無於字·天理本裸作裸·東洋本裎作裎·

東急本作袒裼裸裎於我。

大夫也 東急本作(大)夫也。云善已而已 足利本云作曰。

浩然之貌 東急本作浩然^浩之貌。正心而已耳 足利本耳作耳。イ無

不慙去也 天理本慙作暫。孟子乃平之 足利本之下補耳[※]、

欄外有三要之校語謂平作評印本或作平或作評評字可也·京

大本天理本東急本平作評。

孟子卷第三 足利本作孟子卷之三。

孟子卷第四 趙氏注

公孫丑章句下

京大本天理本東洋本無趙氏注三字、公孫丑章句

下有凡十四章·東急本孟上有纂[△]互[△]註[△]四字、公孫丑章句

下有凡十四章、其下低二格有趙氏注三字·足利本公孫丑

章句下有凡十四章·趙氏注三字在第三行低二格。

○孟子曰天時至戰必勝矣

五行王相 東急本王作旺。若是之類也 東急本傍有校語謂

余焉能戰是也^イ。仗道德也 東急本也作也。而已矣

得道者多助 東急本得作德。得

○孟子將朝王至不為管仲者乎

故称有疾 東急本作故称有疾(而拒之也)イナ。且問疾也 足

利本疾作病。学於孟子者也。天理本無於字。權辭以對。京※辭正大本辭作礼。天理本東急本辭作礼。具以語景子。東急本具具イ本作且。

丑見王之敬子也未見所以敬王也。東急本作丑見王之敬子（未見所以敬王也）也。

景丑責孟子。東急本作丑子イ。曰惡者深嗟歎。東急本歎作嘆。我何言乎。足利本乎作也。乎イ今人言謂王無知。京大本東急本

言作言。天理本言作皆。如我敬王者邪。足利本邪作耶。礼

父召無諾而不至也。京大本天理本東急本重無諾二字。足利

本無諾下後補無諾二字。人君無德但有爵耳。足利本人君作※イ（人）君。

則就之其尊德樂道。京大本道字後補。東急本則字後補。

大賢有所興為。東急本有作有。者イ桓公能師臣而管仲。東急本能イ能作皆。譏其功烈之卑也。京大本天理本東急本也作耳。

其所受教。東急本作其所（受）教。

可從受教者。京大本作可從（而）受教者。東急本作可從（而）

受教者。故非齊王之召己己是以不往也。京大本天理本下已也作也。東急本下已作己。往下後補而朝見於齊王六字。足利

本往下後補而朝見於齊王六字。

○陳臻問曰至可以貨取乎

兼金好金也。東急本作兼金好（金）也。銖二十兩。東急本作二十（四）兩。

必以贖辭曰餽贖。京大本餽作饋。東急本餽作餽。餽

不虞之心。足利本虞作慮。※虞イ而以貨財見取乎。東急本而下補

可字、乎下後補是其礼当其可也七字。

○孟子之平陸至寡人之罪也

平陸齊下邑也。東急本下作下。之イ一日三失其行伍。東急本三

作二。戎昭果毅。京大本天理本東急本戎昭作以招。足利本

戎昭作戎以昭。一失之則。東急本作一失之失之則。△△

佚伍也多矣凶年飢歲子之民。東急本亦字飢字後補。足利本之

字後補。

軫軫戶於。東急本下軫作博。傳イ不肯賑窮。東急本賑作振。

○孟子謂蚺龜曰至有余裕哉

其欲近王似諫正刑罰之。東急本似作以。似諫使之諫而去。京

大本天理本上諫作謀。東急本作謀使之諫（不用）而去。足

利本上諫作講。※諫不知自諫又不去。東急本作不知自諫又（不

用而）不去。

公都子以告。公都子孟子弟子以齊人語告孟子也東急本後補此二十字。

吾進退豈不綽綽然 東洋本吾作五。

諫爭之官 足利本爭作諍。孟子言人去。各本人下有臣居官不得守其職諫正君不見納者皆當致仕而二十字。進退自由

東急本作進(退)自由。

○孟子自齊至天下儉其親

孟子事於齊 京大本天理本東急本事作仕。足利本事作事。※仕イ

樽稱之自天子 東急本樽稱作棺榔イ(稱)。

孟子言古者棺樽薄厚 京大本樽作榔。天理本無者字。東急

本棺樽薄厚作◎樽薄棺厚。一世之厚 各本厚作後。孝子更

去 東急本作孝子更子更去。我何為独不然如是也 東急

本作我何為独不然(不)然(者言其不)如是也。快也

天理本快作快。人子之心 東急本人(之)子之心。

吾聞之 京大本天理本東急本東洋本之下有也字。

儉約於其親 東急本作儉約於其親於其。△△

○沈同以其私至何為勸之哉

彼不復孰可 各本復下有問字。便自往伐之 天理本便作使。

今以燕伐燕 天理本作今以燕伐(燕)。

主獄則可以 東急本獄作獄。獄イ。△章指▽王道之正 足利本主

作天。

○燕人畔至從為之辭

管叔監殷管叔以殷 東急本作管叔監殷(管叔以殷)。

親親之恩也 足利本恩作思。※恩。大誥明敕 各本敕作勅。不能

匡君 東急本作不能匡(國)君。

○孟子致為臣而歸至自此賤丈夫始矣

還使寡人得相見否 各本還作遂。東急本否下有乎字。孟子

对王言不敢 天理本王作曰。王イ

不敢請耳固所願也 天理本敢作敦。敦イ

子盍為我言之 天理本無子字。

使學者遠近鈞也 足利本鈞作均。

季孫曰異哉子叔疑 足利本孫作路。孫イ

心疑亦以為 東急本作心疑(或之)亦以。△△イ无

是猶独於富貴之中 京大本独字後補。貪人可賤 東急本貪

作貧。貪イ。左右占望見 京大本天理本東急本占作皆。足利本占

作占。※皆イ。市中有利罔羅而 東急本羅作維。羅イ。有闕市之賦也 足

利本賦作征。※賦イ

○孟子去齊至長者絕子乎

至昼而宿也 東急本作至昼(地)而宿也。倚其几而臥也

東急本臥也作◎也臥。我言言而遂起退 東急本作我言言而

遂起退我言而遂起退。然則子思 東急本子思作◎思子。

又我絕子乎 東急本作又(我)絕子乎。

○孟子去齊至士誠小人也

祿濡滯猶稽也 京大本天理本猶稽作淹久·東急本作祿濡滯

也猶稽也·足利本作祿濡滯(猶)熟稽也、上欄有校語謂熟

稽一作淹留也。怪其猶久 足利本猶作熟、上欄有校語謂熟

久一作淹久。

王不予追也東洋本追作進。

可以行善政 天理本以作次。論曰 京大本天理本東急本作

論語曰·足利本作論(語)曰。

○孟子去齊吾何為不予哉

顏色不悅也 東急本作顏色(故)不悅也。

能名正一世者 京大本作能名正一世者。周家王迹 東急本

作周家主迹。△章指∨与天消息 東急本与作與。是故知命

者 京大本無者字·東急本者字後補。

○孟子去齊至非我志也

仕不受祿邪 足利本邪作耶。崇齊地 東急本地下補名字。

不得請去 東急本請作請。

孟子卷第四 東急本作纂凶互註孟子卷第四。

孟子卷第五 趙氏注

滕文公章句上 京大本天理本東洋本無趙氏注三字、滕文公章句

上下有凡五章·東急本孟上有纂凶互注四字、趙氏注三字在

第三行、滕文公章句上下有凡五章。

○滕文公為世子至厥疾不瘳

似後世避諱改考公 京大本天理本似作以·東急本似作似。

当充而用之耳 天理本之作也。欲勸勉世子也 東急本作欲

勸勉世子也。天下之道一言而已 各本天上有夫字。復何疑

也 東急本也作也。与我同丈夫耳 東急本耳作耳。言欲有

所為 東急本所作所。瞑眩憤亂乃得瘳愈也 東急本憤作憤、

也作也。德惠乃洽也 京大本洽作洽·天理本洽作治·東急

本洽作治。

○滕定公薨至弟者大悅

於大故吾欲使 天理本吾作五·東洋本作吾於大故◎欲使。

大故謂大喪 各本喪下有也字·東急本故作放。孟子欲令世

子 天理本子下有之字。

齋疏之服 各本齋作齊。

齋疏齋縗 各本齋作齊·東急本縗作縗。飭饜粥也 東急本

饜作饜。

不欲曰吾宗國 東急本作不欲(也故) 曰吾宗國。

受之於孟子也 天理本於下有於之二字 東急本作受之於孟
子也(故曰吾有所受)。

吾侬日 各本侬作他、不可以侬求者也侬字倣此。

使信我也 京大本作使信(我)也 東急本作使(具)信我

也。喪上哀 各本上作尚。莫敢不哀 東急本作莫(敢)不

哀。以風加草 東急本作以風加草。以身帥之也 天理本東

急本帥作師、但訓ヒキイル。倚廬於中門之內 東急本倚廬

作倚(廬)。可謂曰知 京大本作可謂(曰)知。四方諸侯

之賁 京大本天理本方下有之字。△章指▽莫當於奉礼 東

急本作莫◎於奉当礼。

○滕文公問為國至助者藉也

民事不可緩也 東洋本無也字。

以政督趣 東急本督趣作督趣。

亟其乘屋 東洋本亟作函。

○龍子曰治地至則在君与子矣

謂之莫不善也 東急本善下補於貢二字。反以常類少取之

東急本類作類。

則必取盈焉 天理本無必字。

反以常類少取之 東急本類作類。民人糞治 東急本治作治。

尚無所得 天理本無無字。又当举貸子倍 東急本作又常举

貸子倍。至使老小轉戶溝壑 各本戶作乎 東急本小作小。

未任居官得 東急本作未任居官則(得)世食。大平時 各

本大作太。雖周家時亦助也 東急本作雖周家(之)時亦

(有)助(之制也)。彝倫攸叙謂常事所序也 京大本天理

本叙作序 東急本所序作所叙(者)。新復脩治 天理本新

作口。必先正其經界 各本必作亦。井牧其田野 東急本田

野作野田。夫軫以為差 東急本作(夫)軫以為差。亦不祭

東急本作(亦)不祭。徙謂爰土易居 京大本天理本爰作

受。東急本爰作爰。周礼大宰曰 各本大作大。相助助察姦

也 東急本姦也作奸(惡)也。以為廬宅 東急本作以(為)

廬宅。

○有為神農之言者至惡能治国家

神農之言者 京大本作神農之言(者)

治為神農之道者 天理本道下有之字 東急本治作治。野人

之称 京大本作野人(之称) 天理本無之字。舍之宅也

京大本作舍之宅(也)。

陳相与其弟 東急本作陳相与(其)弟。

相言許子以粟易素 京大本言作曰。相曰用之 天理本用作困。

以其械器易粟者 東急本作以其械器易者粟。

取諸其宮中 東急本宮作官。

以粟易器 東急本作◎粟易器：以。不病陶冶陶冶 京大本

作不病陶冶陶（冶）。

百工之事 京大本天理本東洋本無之字。

許子不知礼也 東急本礼下補者字。

有小民之事 天理本東洋本民作人。

謂農工商也 東急本作謂（農工）商也。以羸路之困也 各

本作以羸困之路也。

天下之通義也 東急本作天下之通義（也）。以奉養其上天下通

義 東急本作以（奉養其上天下）通義。

禽獸偪人 東急本偪作偪。

水盛故草木 京大本水作木。天理本水作木。禹敷土治土也

東急本作禹敷土（是言）治（具）也。逃匿而遠竄也 東

急本而作而。不得入 各本無得字。寧得耕乎 各本乎作也。

司徒主人教 京大本天理本主作得。東急本主作得。貴信契

之教也 東急本作契之（所）教也。

放勳日勞之来之 京大本日作曰。天理本日作日。傍有校語謂曰

日兩說。東洋本日作曰。東急本日作曰。傍有校語謂曰日兩

說也少納言押花。

放勳堯名也 東急本名作名。加德惠也 東急本作加德惠

也。

百畝之不易 東洋本作百畝之田不易。

不治易為已憂 天理本治下有不字。東急本作不（易）治不

易。

堯舜之治天下豈 東急本作堯舜之治天下（也）豈

則其道也 東急本則作則。

北方之學者未聞或之先也 各本聞作能。

數十年師事陳良 東急本年作人。

門人治任 東急本門作聞。

祭祀壇場也 東急本作祭祀◎場壇也。故欲尊有若 東急本

作故◎尊有若：欲。朝夕奉事之如事孔子 東急本之下補礼

字。春秋之五月六月 東急本五月作五月。馱搏勞也 各本

搏作搏、東急本勞下補鳥字。許子託於大古 各本大作太。

入深谷 東急本作入（於）深谷。懲艾也 東急本艾作文。

亦為不善 京大本作亦為（不善）。不相偽誕 各本誕作詐。

不欺愚小也 東急本作不(相)欺愚小也。什十倍也 東急

本作什(十)倍也。尺寸厚薄 東急本作尺寸厚尺寸薄。

△章指▽不理万情 各本万作物。

○墨者夷之至命之矣

則道不見 天理本作則(道)不見。

夷子為墨道墨者 東急本作夷子為墨道(者)墨者。夷子思

欲以此道 京大本作夷子思欲(以)此道。

徐子以告夷子夷子 東急本作徐子以告夷子(夷子)。

徐子以告孟子 各本重孟子二字。

且天之生物也 東急本作且天之(生)物也。

各由一本 東急本由作由。

掩之掩之 東洋本作掩之々。

嘽攢共食之也 京大本攢作相。天理本嘽下有相字。復以告

夷子夷子 天理本不重夷子二字。

孟子卷第五 東急本作纂互註孟子卷第五。

孟子卷第六 趙氏注

滕文公章句下 京大本天理本東洋本無趙氏注三字、滕文公章句

下下有凡一十章。東急本孟上有纂互注四字、第六下隔一

格有趙氏注三字、滕文公章句下下有凡十一章。

○陳代曰至直人者也

請孟子 各本請下有見字。可以輔致霸王乎 東急本輔作輔。

宜若可為也 東急本宜作直。

不至將殺之 東急本作不至將(殺)之。

故不至也 東急本作故招之而不至也。

志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元 東急本上下忘字作忘。

無棺槨 各本槨作椁。要利也 東急本作要其利也。

反命曰天下之賤工也 東急本曰作日。

遇一朝而獲十 東急本作遇一朝而獲(十)。

不習於禮 天理本禮下有詭遇詭計以要禽也八字。順毛而入

順毛而出一 東急本作(順毛而入)順毛而出一。△章指▽

非招不往 天理本非作未。有善其辭命 天理本其下有善字。

○景春曰至此之謂大丈夫

孫故曰公孫張儀合從者也一怒則構 東急本此一五字後補。

使疆陵弱 各本疆作強。天下兵革熄也 東急本兵革作丘事。

△章指▽阿意用謀 京大本天理本用作相。故云 天理本云

作去。

○周霄問曰至鑽穴隙之類也

周霄魏人 京大本天理本人下有也字・東急本魏人作◎人魏也。有所求而不得 東急本得下補爾字。賢者也而言 東急本而作而。

漆盛不絜 東急本絜作潔。

夫人親織蠶繅之事 各本織作執。牲必特殺 天理本特作時

・東急本特作特。出疆必載質何也 東急本疆作疆、以下本

文注文皆倣此。農夫不可不耕 東急本作農夫不可(不)耕。

不知其急若此若此君子 東急本若此作若此(若是)。

媒妁之言 東洋本妁字傍有校語謂イ本无ナシ。

雖欲仕如不由其正道是与鑽穴者何異 各本穴下有隙字・東

急本正道是与作正(道与)。京大本東急本何異作何(無)

異。△章指▽君子務仕 東急本仕作本。行仁待礼 東急本

仁作仕。

○彭更問曰至食功也

子以為泰乎 京大本作子以(為)泰乎。

非以其道 東急本作非(以)其道。無功事而 東急本事件

事。周礼攻木之工七 天理本工七作工(七)・東急本七作

七。是其四者羨余也 東急本作是其四者羨余(者)也。悌

順也 東急本悌作悌。破碎瓦画地 東急本画作画。子果食

功也 東急本子上有子是二字、功下補非食其志四字。△章指▽食力以禄 東急本無以字。

○万章問曰至大何畏焉

今將行王政 東急本王作王。

湯居亳 京大本亳作毫。湯使亳衆往亳字倣此。

葛伯率其民 東急本作(葛)伯率其民。

要其有酒食 東急本作要其有酒(食)。

書尚書逸篇也 東急本作書尚書逸篇(文)也。

四海之內 東洋本之作之。

北夷怨曰奚為後 各本夷作狄。

婦市者弗止 東急本止作止。

湯初征從葛始也 京大本東急本初作始。者湯再出征十一国

再十一凡征二 東急本此十四字後補、征字傍有校語謂正

正。從有攸以下 東急本以作已。尚書逸篇之文 天理本

文下有也字、以迎其類也 東急本迎作迎。

大誓曰 京大本東急本大作太。

大誓古尚書 京大本東急本大作太。百二十篇之時大誓也

各本大作太。侵紂之疆界 東急本作侵(紂之)疆界。張

伐殺之功也 東急本作張◎伐殺之功也。今之尚書大誓 各

本大作太。与古大誓同。東急本大作太。伝記引大誓。各本大作太。皆古大誓也。東急本大作太。何畏齊楚焉。東急本作何畏齊楚（之國）焉。△章指√未民。各本未作末。

○孟子謂戴不勝曰至独如宋王何

曰使齊人伝之不勝曰使齊人東急本此一二字後補。

楚衆人咻之咻之者囁也。京大本天理本囁作謹。東急本囁作謹。故曰宋王也。東急本作（故曰宋王）也。△章指√白沙在涅不染。京大本作白沙（在）涅不染。天理本作白沙在涅不□。東急本作白沙在泥不染。

○公孫丑問曰至可知已矣

孟子曰古者不為。東急本作孟子（曰）古者不為。

富且貴者也。東急本作◎且貴者富也。有好善之心。東急本善作義善。二人距之大甚。各本大作太。

孔子之亡也。東急本無之字。

恐其便蒼拜使人也。東急本便字破損不明傍有校語謂使使。脅肩竦体也。京大本竦作踈※竦。天理本竦作踈。灌園之勤也。東急本作灌園之（勤也）。

赧赧然非由之所知也。東洋本下赧字作報。

心不正貌也。京大本作心（不正）貌也。由是觀君子子路之

言。京大本東急本君作曾。天理本君子三字作曾一字。

△章指√已甚。天理本甚作其。得宜正已。天理本宜作丑。赧然不接傷若夏畦也。天理本無此九字。

○戴盈之曰至何待來年

請輕之以待來年。京大本作請輕之（以）待來年。天理本無以字。然後已如何。各本如何作何如。

△章指√善改。天理本改作政。待且而。天理本且作且。譬猶。東急本譬作辟。然後可也。東急本然作而。

○公都子曰至聖人之徒也

言子好与楊墨之徒。東急本子作孟子。迭有乱治非一世。東急本乱治作◎治乱◎。

洿水警余。東急本余作余全。馭龍蛇。東急本作馭（龍）蛇。東洋本龍蛇作蛇龍。

流行於地而去也。京大本天理本也作之。乱君更興。東急本作（乱）君更興。故作邪偽之說。各本邪作詐。姦寇之行沛草木之所生也。東急本作姦寇之（行沛草木之）所生也。復伐前後三年也。東急本伐作伐。故特伐之。天理本特作時。

東急本伐作伐。武王大纘。東急本纘作纘。

弑其君者有之。東急本作弑其君者（有）之。

孔子曰知我其惟春秋乎 各本我下有者字。

謂天子之事也 東急本作イナ故曰謂天子之事也。我正王綱也 東急本綱作綱。紀イナ

聖王不作諸侯放恣処士 東洋本作聖◎不作諸侯放恣処士王。

聖人之道不興 京大本東急本人作王。無尊異君父 各本異作卑。但崇庖廚 天理本崇作蒙。周公兼懷 東急本作周公

(兼)懷。△章指▽仰思 天理本思作志。

○匡章曰至而後充其操者也

匍匐往 東急本作匍(匍)往。

是以絕糧 各本糧作糧。然無心無識 東急本作然無心(無)

識。

伯夷之所築 東急本作伯夷之(所)築。

辟纒以易之也 東急本作辟(纒)以易之也、

其麻曰辟練麻曰纒·東急本練下有其字。

避兄離母 東急本避作避。辟イ

万鍾仲子 東急本子作子。士イ竄於於陵 東急本作竄(於)於

陵。

生駝 東急本駝作鵝·殺是駝也駝字倣此。

頻顛 東急本顛作戚。顛イ

受人之駝 東急本駝作鵝。頻顛 東急本顛作戚。駝鳴之声

天理本無之字·東急本駝作鵝、之作之、△母食以駝 天理本駝作鵝。如蚓之性 東急本作如蚓(之)性。△章指▽諸巨

擊也 天理本諸下有候字東急本巨作匡。

孟子卷第六 東急本作纂△△△△互註孟子卷第五。

孟子卷第七 趙氏注

離婁章句上 京大本天理本東洋本無趙氏注三字、離婁章句上下

有凡二十八章·東急本孟上有纂△△△△互注四字、趙氏注三字在

於第三行、離婁章句上下有凡二十八字。

○離婁章句上

離婁者 各本者作乃。秋毫之末 京大本毫作毫·東急本毫

作豪。毫イ乃成方員 各本員作圓。

○孟子曰離婁至吾君不能謂之賊

不能成方員 東洋本員作圓。員イ

晋平公之樂大師也 東急本大作太。陽律太族 京大本天理

本大作大。

今有仁心仁聞 東急本作今有仁心(仁)聞。

乃可為後法也 東急本後下補世字。イナ

不能以自行 天理本作不(能)以自行。

所行不過差矣 東急本所行作(所)行。方員平直 天理本

員作圓。可得而知審 東急本作得而(審)知審^{1元}。天下被覆

東急本作(天)下被覆。

不仁而在高位 東急本後補此六字。

犯義小人犯刑國之所存 東急本作◎犯刑國之所存犯義小人◎

詩曰天之方蹶 各本曰作云。

泄泄猶沓沓也 東急本作泄泄猶沓(沓)也。

△章指▽國由先王禮義 各本國作因。

○孟子曰規矩至此之謂也

所以治民治民 東急本作所以治民(治)民。

蕩之篇也 東急本作蕩之篇(也)。殷之所鑒 東急本作殷

之(所)鑒。

○孟子曰三代至惡醉而強酒

彊酒 各本彊作強。△章指▽莫若為人 各本人作仁。

○孟子曰愛人至自求多福

己仁獨未至邪 各本獨作猶。此章獨字皆倣此。東急本己仁

作己(仁)。己智獨未足邪 東急本作(己智)獨未足邪。

○孟子曰人有恒言至家之本在身

△章指▽必須敬慎也 東急本敬作敬^{故1作}。

○孟子曰為政至溢乎四海

謂賢卿大夫之家 京大本作謂賢(卿)大夫之家。

一國慕之 東急本作一國恭慕之。

沛然大洽 天理本洽作治。東急本洽作治^洽。

○孟子曰天下至逝不以灌

役於大國 京大本作役(於)大國。

又不受命 京大本作又不受(命)。

大國不與之通 東急本以大國不命是所以自絕於物與之道^{△△△△△}。

必得政於天下 東急本得作得^{為1}。故百年乃洽 各本洽作治。

今之時 天理本無之字。執裸暢之禮 各本暢作鬯。天下之

衆不能當也諸侯有好仁者 東急本重複此十四字有傍点。

誰能執熱 東急本作能報執熱[△]。

○孟子曰不仁者至此之謂也

清濯所用 各本濯作獨。

必自毀然後人毀之國必自伐然後人伐之 各本二然字共作而。

大甲曰 各本大作太。

△章指▽先自毀伐人 東急本伐作代。戰戰恐慄也 各本慄

作栗。

○孟子曰桀紂至此之謂也

雖欲不王不可得也 東急本王作土。^王

其何能淑載 東急本作其何能淑(載)。

何能為善乎 東急本作何能善也哉辭也胥相也為善乎。

○孟子曰自暴者至而不由哀哉

自暴也吾身不能居仁由義謂之 東急本後補此十三字。

是可哀傷哉 東急本哉作哉也。

○孟子曰道在邇而求諸遠

邇近也 京大本邇作爾。不親其親 天理本作不親(其親)。

○孟子曰伯夷至必為政於天下矣

大公辟紂 各本大作太。

文王作興 東急本文王(作)興。

西伯養老 京大本作西伯伯養老。言皆將往也 京大本天理

本將作婦。東急本將作婦。^將。章指欲使庶幾 京大本作欲

(使)庶幾。

○孟子曰求也至任土地者次之

以声其罪 東急本罪作罪。^罰。攻伐責讓之 東急本伐作代。

強戰爭地 東急本作強戰殺人爭地。

沉於爭地 各本於下有爭城二字。辟草任地 東急本任上後

補萊字、任下後補土字。章指同聞鳴鼓 京大本天理本

同作固。殺民土 京大本土作士。

○孟子曰存乎人者至人焉瘦哉

章指目可神候 各本可作為。

○孟子曰恭者至笑貌為哉

恭儉豈可以 東急本恭字以下注文章指共六七字重複。

○淳于髡至援天下乎

援之否邪 車急本邪作耶。章指拯世 東急本拯作拯。^救

道之指也 東急本指作所。^指

○公孫丑曰至不祥莫大焉

自相責以善 各本無相字。

○孟子曰事孰至曾子者可也

吾未之聞也 東急本作吾未之聞(也)。

失仁義則 京大本天理本仁作不。東急本仁作不。^仁

此所謂養口體 東急本作此(所)謂養口體。

○孟子曰人不足至而國定矣

政不足間也 各本足下有与字。

非法度也 東急本度作渡。章指國定下不邪 東急本下

作正。^下

○孟子曰有不虞之譽

不度其將有名譽 京大本作（不度）其將有名譽。

○孟子曰人之易其言也

△章指▽言出於身 京大本作（言）出於身。

○樂正子至克有罪

見孟子 東急本作見子子。^孟

子敖子敖使 東急本作子敖子敖子使。孟子曰子聞 天理本

無下子字。謝過服罪也 東急本謝作言。^謝△章指▽尊重道

各本尊下有師字。

○孟子謂樂正子曰

學而不行 東急本學作譽。^學

○孟子曰仁之實至手之舞之

豈從自覺 各本從作能。△章指▽不能自知 東急本不作而。^不

○孟子曰天下至此之謂大孝

底豫瞽瞍底豫 各本底作底、注文倣之。東急本此六字後補。

孟子卷第七 東急本無。

孟子卷第八

趙氏注

離婁章句下 京大本天理本東洋本無趙氏注三字離婁章句下有

凡三十三章·東急本離婁章句下有凡三十三章。

○孟子曰舜生至其揆一也

旧邑近畎夷畎夷 東急本作旧邑也（近畎夷畎夷）。書曰大

子舜 各本大作太。近於鄴鎬也 東急本也作也。^{之地}千有余

里以外也 京大本天理本作千有余里千里以外也。東急本作

千有余里（千里）以外也。千二百歲 東急本歲作年。^歲行

政於中国 東急本作行政於（中）国。周礼有六節 東急本

作周（礼）凡有六節。△章指▽雖不比 東急本比作此。^此通

一軌 東急本軌作揆。^軌百王法也 東急本法下有之字。

○子產聽鄭国之政至亦不足矣

子產鄭卿 東急本卿作国。^卿惠民之用 各本用作心。△章指▽

平政為首 東急本作平政為（首）。人君由天 東急本由作

猶。

○孟子告齊宣王曰至何服之有

孟子告齊宣王曰 京大本作孟子曰告齊宣王曰。

如手足則 事急本作如○足手則。[○]

宣王問礼旧臣 東急本問作問。^問

疆又先於其所 東急本此六字後補。

収其田萊及里居也 天理本萊作桑。東急本作収其田里田萊

及里居也。

膏沢不下於民 東洋本下作可、但訓クタラ。

△章指▽諷諭 各本諷作風。

○孟子曰無罪而殺士

仁鳥曾逝 各本曾作增。

○孟子曰君仁莫不仁

所瞻仰以為法故 東急本作所瞻即(仰)以為法(故)。

○孟子曰非礼之礼

非義之義 東急本作非(義)之義。

○孟子曰言人之不善

△章指▽不佞不求何用 東急本作(不)佞不求△何用。

○孟子曰仲尼不為己甚者

不欲其己甚 東急本作不欲(為)其己甚。^{1无}△章指▽論曰各

本論作語。

○孟子曰大人者言不必信

惟義所在 東急本在下有所欲行者若親在不得以其身所在

十五字、傍有校語謂以下无。

○孟子曰大人者不失

少小心 東急本之作之。^人*

○孟子曰養生者不足以当大事

送終如礼 京大本作送(終)如礼。

○孟子曰君子至欲其自得之也

深致極竟之 東急本之作^之者。如性自有之也 京大本天理本

無也字。資取也 東急本作資(取也)。¹君子欲自得之也

各本自作自。

○孟子曰以善服人者

文王治岐是也 東急本作(若)文王治岐是也。^{1ナ}

○孟子曰言無實不祥

善之實仁義是也 東急本此七字後補。直於不善之實也 東

急本直作真。^直

○徐子曰至君子恥之

孟子曰原泉 東洋本作孟子(曰)原泉。

盈科而後進 京大本作盈(科)而後進。

至於四海者 東急本於作^於故。△章指▽君子恥諸 東急本恥

作取。^耻

○孟子曰人之至非行仁義也

幾希無幾也 東急本無作^無庶。倫序 東急本序作叙。非彊力

各本彊作強。△章指▽衆人皆然 東急本無皆字。

○孟子曰禹惡至坐以待旦

儀狄作酒 東急本作儀狄(作)酒。書曰禹拜讜言 各本讜

作昌。故望而不致誅於紂也 京大本作(故)望而不致誅於

紂也。坐而待旦 各本而作以。欲急施之也 東急本急作丞。

△章指▽大平之隆 各本大作太。

○孟子曰王者至竊取之矣

謂聖王也 東急本作謂聖(王)也。大平道 各本大作太。

魯之春秋 東急本作(魯)之春秋。

興於記惡 東急本作(興)於記惡。△章指▽可以言頌 東

急本作可以言(頌)。大平時 各本大作太。

○孟子曰可以取

傷此名 天理本東急本此下有三字。△章指▽故設斯科 東

急本作故(設)斯科。

○逢蒙学射至發乘矢而後反

春秋伝曰 東急本作春(秋)伝曰。

射於尹公之他 京大本無於字。

取友必端矣 京大本作取友必端(矣)。

不邪僻 各本僻作辟。其道本所出 京大本作其道(本)所

出。

今日之事君事也 東急本作今日(事)君事也。

乘矢而後反 東洋本矢作失。

假使如子濯孺子 東急本作假(使)如子濯孺子。△章指▽

夷羿以殘 各本殘作賤。

○孟子曰西子至以祀上帝

蒙其頭也 東急本作蒙其頭(面)。¹醜類者也 京大本作醜

類(者)也。言人当自治 東急本当作常。^当

○孟子曰天下至可坐而致也

当順其故 東急本作当(順)其故。改戾其性 東急本作改

戾其改戾其性。欲用智 東急本智作知。不順物 各本物下

有之性而改道以食之八字。引之就下 東急本引作別。^引空虛

京大本天理本作虛空。千歲日至之日可坐知也 東急本作

千歲日至(之日可坐致)坐知也。¹

○公行子至不亦異乎

不亦異乎 東急本作不亦異(乎)。

子敖之言 東急本無之字。簡異也 天理本異作易。^異云以礼

者 東急本作云(以)礼。△章指▽不合時人 京大本作不

合時(人也)。事貴 京大本作事(貴)。脅肩所尊 天理

本尊作貴。

○孟子曰君子至君子不患矣

敬人者人恒敬之 東急本作敬（人者）人恒敬之。

人必反之已也 天理本無必字。

如舜而已矣 天理本無矣字。

不致意 各本意作患。△章指▽可以憂也 東急本可作何_可。

○禹稷当平世至雖閉戶可也

由己溺之 各本之下有也字。

○公都子曰至是則章子已矣

好貨財私妻子 東急本財作則_財。

鬪很 各本很作狠。

不孝之行章子豈有一 東急本作不孝之行章子豈有一章子豈

有一。賊恩之大也 東急本作賊恩之大（者_{1无}）也。

夫妻子母之屬 東洋本無之字。

故出去其妻 東急本作故出（去）其妻。△章指▽出妻屏子

東急本作出妻子之意以為人得屏子。

○曾子居武城至易地則皆然

何不去之 天理本之作也。勸使避寇 京大本作勸使（避）

寇。先生寇至則先去使 先（生寇至先）去使。曰負芻 東

急本作（曰）負芻。△章指▽謂得其同 各本同作宜。

○儲子曰至与人同耳

乃以仁義之道 東急本作乃以仁異乃以仁義之道。

○齊人有一妻至幾希矣

郭外冢間也 東急本作郭外（冢）間也。喜悅之貌以為 京

大本天理本以作也。東急本作喜悅之貌也（以）為。富貴者

皆以枉曲之道昏夜乞哀而求之 東急本重複此十六字、後抹

消十六字。△章指▽於白曰 東急本白作向_白。由此良人 東

急本作由（此）良人。

孟子卷第八 東急本作纂_{△△△}互_{△△△}註孟子卷第八。

孟子卷第九 趙氏注

孟子卷第九

萬章章句上 京大本天理本東洋本東急本無趙氏注三字、萬章章

句上下有凡九章。

○萬章章句上

孟子弟子也 東急本作孟子（弟子）也。

○萬章問曰至于於大舜見之矣

萬章問曰 東急本作萬章問（曰）、曰字朱墨_二一種。

号泣于旻天 東急本作号泣于（旻）天。

旻天秋也 天理本作旻天秋（天）也。東急本作旻天秋（天）

也。憂陰氣也。天理本作憂陰氣本氣陰也。東急本作憂◎氣陰也。

孝子不得意於父母。京大本作孝子(不)得意於父母。恕。然。京大本作契契然。於我之身独有何罪哉。天理本無之字。

堯使九子。東急本作堯(使)九子。有舜典之敘。東急本作有舜典其之敘。猶晉獻公。京大本作猶(晉)獻公。亦不復見。

東急本見下補於經二字。不足以解憂獨見。東急本作不足以解以解憂獨見。三十在位在位時。京大本天理本三作五。東急本三作三、不重在位二字。△章指▽夫孝者。各本無者字。

孝道明著。東急本作孝道(明)著。

○万章問曰至喜之奚偽焉

齊風南山之篇。京大本天理本齊下有有國字。東急本齊下有國△

字。父母亢答。各本亢作先。帝堯知舜大孝。京大本天理本堯作亦。東急本作帝(堯)亦知舜大孝。捐去其階。天理本

捐作捐。旋從階下。東急本作旋從(階)下。蓋其井。東急本作盡其上。与父母分舜之。東急本作与◎母分父舜之。取

其善者。各本其作於。象見舜生在牀。京大本天理本無生字。東急本作象見舜(生)在牀。

象之將殺。東急本作(象)之將殺。

象之將殺之。京大本天理本之作已。東急本之作之。已

象喜亦喜。東洋本作象喜(亦喜)。

○万章問曰至此之謂也

舜封象于有庠。東急本于作放。

曰象不得有為於其國天子。京大本作曰象不得有為(於其國)天子。

比諸見放也。東急本比作此。不侵其民也。東急本作(不)侵其民也。歲歲自至。東急本作歲(歲)自至。接見有庠。

東急本作接(見)有庠。

○咸丘蒙問曰至不得而子也

孟子弟子。東急本作孟子(弟子)。故問齊野人之言。各本

問作聞。徧天下循土之派。東急本無之字。

雲漢之詩曰。京大本作雲漢(之)詩曰。

文詩之文章。東急本章作言。章

詩曰永言。京大本曰作云。

此舜之謂也。東急本謂下有之字。

齋慄。各本慄作栗。

書尚書逸篇。京大本天理本無此五字。東急本作(書尚書逸

篇也)。齋慄敬慎。各本慄作栗。天理本東急本齋作齊。舜

既為天子。東急本作舜(既)為天子。戰慄。各本慄作栗。

△章指▽執子之政也。天理本政作政。故イ東急本政作故。政聖人之軌道。天理本聖作至。東急本無之字。

○万章曰堯以至此之謂也

示天下也。京大本天理本無也字。

故言天不言。東急本作故言天(不)言。

天与之也。東急本作天与之也。△遠地。東急本作遠(地)

也。故訟之謳歌舜德也。京大本天理本作故訟之謳歌謳歌舜

德也。東急本作故訟之謳歌謳歌舜相德也。△

大誓曰。各本大作太。注文倣之。

○万章問曰人有言至其義一也

言隨天也。東急本作◎隨言天也。

之啓曰吾君之子也。東急本作之啓曰吾君子之(也)。

丹朱之不肖。天理本無之字。東急本作丹朱之(不)肖。

而此事自至者。東急本者下有至者二字。△△大甲能改過。各本

大作太。以下注文大字皆倣之。

大丁。各本大作太。

大甲。各本大作太。以下倣之。

大甲悔過自怨。東洋本作大甲悔過(自怨)。

大甲大丁子也。東急本此六字後補。遷徙也。東急本徙作徙。徙

故復得歸。東急本作故◎得歸。復。◎△章指▽義於仁。各本作篤志於仁。

○万章問曰人有言至朕載自毫

雖以天下之祿。東急本雖作雖。亦不以取於人也。東急本無

亦字。玄纁之幣帛。東急本作玄纁之幣(帛)。

天之生此民也。東急本作天(下)之生此民也。

覺悟此未知。東急本作覺(悟)此未知。不屑就也。東急本

屑作屑。屑。歸於身絜不污己。東急本作歸◎於身絜不污己。

△章指▽期於益治而已矣。東急本作期於(益)治而已。

○万章問曰或謂至何以為孔子

於齊主侍人瘠環。東急本作於齊於齊主侍人瘠環。△△

進礼退應義。京大本天理本應作以。東急本心作以。以本作

宋桓司馬。東洋本宋作末。才作

△章指▽君子大居正。各本大作夫。正其大義也。東急本正

其二字傍有校語謂二字本無。

○万章問曰或曰至賢等為之乎

設此言。東急本設作設。本无

屈產之乘。天理本無之字。

顯其君。東急本作顯其(君)。

孟子卷第九 東急本作纂凶互註孟子卷第九。

孟子卷第十 趙氏注

万章章句下 京大本天理本東洋本東急本無趙氏注三字、万章章

句下下有凡九章。

○孟子曰伯夷至非爾力也

不使治則 東急本作不◎治使則。

更思廉絜 京大本天理本絜作潔。

治亦進亂進 東急本下進作退。進イ

予天民之先覺者 各本者下有也字。

匹夫匹婦 東急本上匹作四。匹

阨窮而不閔 各本閔作憫。

袒裼裸裎 天理本作袒裼裸裎·東急本作袒裼裸裎。

可以仕而仕 東急本作可(以)仕而仕。

終條理者 東急本此四字朱筆後補。不細也 天理本細作納ナ

含五德而 各本作合三德而。自有極限 東急本有作有イ无

△章指▽由可踰 各本由作猶。

○北宮錡問曰至以是為差

侯一位子男同 各本位下有伯一位三字。

土地之等差也 東急本作(土地之等)差也。

大夫大夫倍上士 東洋本作大夫(大夫)倍上士。

十分之一也上士之祿 各本也下有大夫祿居於卿祿四分之一

也十二字。庶人在官 東急本作(庶)人在官。

中次食六人 東洋本作中(次)食六人。

△章指▽僭越 東急本僭作僭。僭イ

○万章問曰至其義一也

不挾長 東急本作不挾長不挾長。△△△

下此五人五人屈礼而就也 各本就下有之字·東急本不重五

人二字。

雖疏食菜羹 東急本疏作蔬。蔬イ

隱居陋巷者平公常往 天理本東急本常作嘗·東急本者作者

者。平公乃入言坐乃坐言 東急本作平公乃(入言)坐(乃

坐)言。終於此 東急本此作也。此

非王公尊賢 各本公下有之字。

尊賢者之礼耳 東急本作尊(賢)者之礼耳。

亦饗舜 東洋本作亦饗(舜)。

謂之貴 東急本作謂(之)貴。

○万章曰敢問至公養之仕也

謂之不恭 東急本之作也。^之今尊者賜己 京大本已作之。天
理本已作之。^{己不}東急本已作之。^己其接待己有 東急本作其接待
己有己有。^{x x}

其交以道其餽也 各本交下有也字。

奪之貨 東急本之作之。^其以礼道来接己 各本来下有交字。

君子謂孟子 東急本作君子謂孟子（也）。比地尽誅 東急

本作比地（尽）誅。取之者為盜 東急本盜下補也字。魯人

之獵 東急本之作也。^之孟子曰孔子所仕者欲事行其道 京大

本東急本事故作仕。万章曰孔子欲仕道如何 各本仕作事。取

備於國中 東急本作（取）備於國中。孔子未嘗 東急本作

孔子（未）嘗。三年淹留 東急本作（口口）三年（淹）留。^{一無}

孔子有見 東急本孔上有^皆二字。

行可之仕有祭可之仕 天理本無上之字。

△章指▽淹久 東急本淹作掩。

○孟子曰仕至而道不行恥也

而有時乎 東急本作（而）有時乎。

非為養也 京大本作非為（養）也。

仕本為行道 東急本作（仕）本為行動。濟民也 東急本無

也字。執釜竈 東急本作執釜（竈）。辭尊貧者 各本貧作

富。

○万章曰士之至尊賢者也

非諸侯敵體 京大本天理本体作礼。受之也 東急本作受

（之也）口何義也。^{x x x x}

受之何義也 東急本此五字後補。

万章曰受粟何義也 東急本此八字後補。固当周其窮乏 東

急本当作常。^当

抱關擊柝 天理本関作開。

麾使者出 東急本作麾使（者）出。

養君子之道也 京大本作養君子之道（也）。

僕僕煩猥貌 東急本猥作^猥。尊賢之道也 東急本作尊（賢）

之道也。△章指▽不弘也 各本無也字。

○万章曰敢問至其官召之也

在野野居之人莽亦草也 東急本人下有草莽之臣四字。衆庶

之人 東急本作（衆）庶之人。為臣佞執也 京大本天理本

執作贊。往供事 各本供下有役字。子思不悅而 東急本作

（子思）不悅而。

士以旂 東急本作士（以）旂。

因章曰旂旂旌有鈴者 東急本作因（文）章曰旂旂（旂）旌

有鈴着。何得而入。京大本何作可。東急本何作可。

周道如底。京大本天理本底作底。作東急本底作底。注文底字做

此。東洋本底作底。

君子所履小人所視。東急本作君子（所履小人）所視。

小人比而。東急本作小（人）比而。效君子。京大本作（效）

君子。有当職之事。各本当作官。以其官名召之。京大本

天理本名作召。△章指▽未洽。東急本洽作治。

○孟子謂万章曰至是尚友也

頌其詩。東急本頌作頌。

△章指▽無友。各本無作母。

○齊宣王問卿至不聽則去

謂有德命為三卿也。東急本謂作為、為作謂。

諫反覆之。天理本無之字。

如之何。各本何下有也字。三而待放遂不聽之。京大本遂作

逐。天理本放遂作故逐、聽作敢。東急本遂作逐。他国也

京大本無也字。

孟子卷第十

告子章句上。京大本東洋本無趙氏注三字、告子章句上下有凡二

十章。東急本告子章句上下有凡二十章、其下隔二格有趙氏

注三字。成簣堂本如左

音注孟子卷之十一

告子章句上。告子者告姓也。子男子之通称也。名不

凡二十章

告子曰性猶杞柳也。義猶柤棿也。以人性為仁義猶

○告子章句上

儒墨之道。京大本作儒墨（之道）。純徹。東急本純作純。

○告子曰至必子之言夫

為才幹。成簣堂本幹作幹。

亦將戕賊。東急本作亦將（戕）賊。故言率人。東急本作故（言）

率人。夫歎辭也。京大本東急本作夫（蓋）歎辭也。△章

指▽順夫自然。成簣堂本夫作天。

○告子曰至其性亦猶是也

無分於東西。東急本東西作西東。△章指▽激躍。成簣堂本

躍作濯。守正性。東急本作守（正）性。

○告子曰至人之性与

△章指▽是在其中。京大本成簣堂本是作人。

孟子卷第十一

○告子曰至晉炙亦有外与

曰彼長而我 東洋本作(曰)彼長而我

敬老者已也 東急本作(且)敬老者已也。老者在外 東急

本在作任。在 耆炙同等 成簣堂本同作何。△章指▽事雖在外

京大本作事(者)雖在外。※從正作

○孟季子問至飲食亦在外也

季子曰酌酒 東急本季作孟。季 △章指▽公都受命 京大本作

公都(子)受命。成簣堂本作公都子受命。乃理 京大本作

乃理(者也)。※

○公都子曰至故好是懿德

紂為君又 京大本作紂為君父又。或至於無筭者 成簣堂本

作或至於無筭者。蒸民之篇 京大本東急本無之字。常好

美德 京大本成簣堂本美作善。東急本美作美。善 孔子謂之

東急本子以下十二字後補。△章指▽天之生人 東急本天以

下八字後補。相懸 京大本相作相。※自正作 舛殊 京大本舛作舛。※行正作

○孟子曰富歲至悅我口

詩云詒我来麴 各本詒作貽、麴作牟。蓋体類与人同 各本

蓋作故。 易牙先得 成簣堂本東洋本先作亦。先

イ本ナン

相似 東急本相作指。相

無目者也 京大本作無目(者)也。

言目之同耳 京大本東急本耳作也。

於心独無所同然乎 各本於上有至字。

△章指▽使然 京大本作使然(者)也。※正作 孟子言 東急本言

作曰。進之 成簣堂本進作集。

○孟子曰牛山至惟心之謂与

可以為美乎 京大本無以字。東急本成簣堂本後補以字。

仁義之心 東急本作(仁)義之心。其日夜之思 東急本作

其(日)夜之思。

則其夜氣 東急本作則◎夜其氣。

則在縱之 各本在作存。△章指▽不干猶止 成簣堂本干作

平、止作正。

○孟子曰無或至非然也

陰寒以殺之 京大本作陰寒以(以)殺之。曰奔秋 成簣堂

本秋作利。秋 △章指▽十人惡之 東急本作一人一惡之。

○孟子曰魚我至失其本心

以喻義 東急本作◎喻義以。惡而辟患也 東急本作惡(而)

辟患也。

乞人不屑也 東急本乞作氣。

踐蹋与之 東急本作踐(蹋)与之。何加益哉己身 東急本

哉己作於哉。

今為所識 京大本作今為(所)識。

○孟子曰至求其放心而已矣

可哀憫哉 京大本東急本憫作閱。

○孟子曰今有至不知類也

猶欲信之 京大本成簣堂本猶作由。

不若人則 京大本作不若(人)則。

類事也 京大本作類(事)也。△章指▽不鄉於道 京大本

鄉作鄉。※即正作

○孟子曰拱把之桐梓

△章指▽養樹木 京大本木下有也字。違務 成簣堂本違作

違。遠イ 誠未違 東急本成簣堂本誠作誠。

○孟子曰人之至尺寸之膚哉

已之所養也 京大本東急本無也字。

体有貴賤有大小 各本大小作小大。

飲食之人人 京大本作飲食之人(人)。

○公都子問曰至大人而已矣

或為大人或為小人何也 東急本作或為(大人或為)小本何也。

利欲之事 成貴堂本事作士。事イ△章指▽先立其大 成簣堂本

立作大。

○孟子曰有天爵者至必亡而已矣

人爵徒之 東洋本從作從。同

○孟子曰欲貴者至人之文繡也

凡人之所貴富 各本富下有貴字。△章指▽比之 成簣堂本

比作此。

○孟子曰仁之勝不仁也

何能勝 各本無能字。東急本勝作勝。救亡猶無也 京大本成

簣堂本猶作由。△章指▽無益 東急本作◎益無◎。

○孟子曰五穀者種之美者也

夫仁亦在乎 東洋本成簣堂本仁作人。東急本仁作人。仁成簣堂本

後補乎字。

○孟子曰羿之至亦必以規矩

工射者 東急本工作善。弩向包的者 京大本東急本無包的

所以為圖也 京大本圖作圓。成簣堂本圖作圖。圖イ△章指▽是

二教 京大本二作二。※不正作

孟子卷第十一 成簣堂本作音注孟子卷之十一。

孟子卷第十二

告子章句下 京大本東洋本東急本無趙氏注三字、告子章句下下

有凡一十六章·成簣堂本孟上有音注二字、無趙氏注三字、

告子章句下下隔六格有凡一十六章。

○任人有問至則將摟之乎

孟子曰於答是也 東洋本作(孟子)曰於答是也。

重於羽者豈謂一鉤金与一輿羽之謂哉 東急本作重於羽(者豈謂

一鉤金与一輿羽)之謂哉。

高於山耶 京大本東急本耶作邪。金重於羽耶 各本羽下有

謂多少同而金重耳一帶鉤之金豈重一車羽十八字·各本耶作

邪。

則不得妻 東急本作則(不得妻)。

処子処女也 東急本作(処子)処女也。

○曹交問曰至有余師

為有力人矣則 各本矣下有然字。

拳百鈞百鈞三千斤也 京大本成簣堂本不重百鈞二字·東急

本作拳百鈞(百鈞)三千斤也。堯言行義之言 各本行作仁。

似桀 東急本作似桀(而已)。^章指^一言以蔽之 京大本

東急本之作也。

○公孫丑問曰至五十而慕

無佗疏之也 京大本東急本東洋本佗作他。

無佗戚之也 京大本東急本東洋本佗作他。

親親也親親仁也 京大本東洋本也作已·東急本作(親親已)親

親仁也·成簣堂本作親親(已)也親親仁也。

詩擲風 東急本擲作耶·成簣堂本擲作耶。

愈疏不孝也不可磯亦不孝也 東急本作(愈疏)亦不孝也(不可

磯亦不孝也)。

尚·或瑾之 成簣堂本之作之。^章指^高叟譏東急本作高

◎譏叟。

○宋棼將之楚至何必曰利

故謂之先生 成簣堂本故作欲。必有所遇 東急本作必有所

說遇。我將為二王 成簣堂本作我將(為)二王。

秦楚之王秦楚之王 東急本作秦楚之王(秦楚之王)。

以相接待 東急本接作相。

先生以仁義說 成簣堂本作先生(以仁)以仁義說。

何必以利為名也 京大本無以字·東急本以字後補。

○孟子居鄒至得之平陸

委任任君 東急本作委任(任)君。幣帛之禮 京大本無帛字。東急本作幣其禮。成簣堂本作幣(帛)之禮。以交孟子而未答也 京大本而上有受字。東急本而上後補受字。成簣堂本而上後補受字。

佗日由鄒之 各本佗作他。

連今日乃得一見 京大本無乃字。孟子曰非也非以儲子 京大本作孟子曰非(也)(非)以儲子。物事也儀不及 東急本作物事也(其)儀不及。但遊交禮 各本遊作遙。故答而不見 東急本作故(禮)答而不見。〈章指〉亢答不差 成簣堂本本亢作無。或不答以其宜也 各本不答作否各。

○淳于髡曰至衆人固不識也

齋之辯士 京大本辯作辨。見貢於桀 東急本成簣堂本貢作貢、復貢之貢字做此。以喻意也 京大本意作心。成簣堂本意作意。

魯繆公之時 成簣堂本作魯繆(公)之時。

二人皆師傅之臣 京大本東急本皆作為。故曰処於淇 各本無於字、淇下有水字。

以為為肉也 東急本作以為(為)肉也。

未及稅解祭之 東急本作未及稅(解)祭解之。〈章指〉見

機 各本機作幾。雖辯終 京大本辯作辨。

○孟子曰五霸至諸侯之罪人也

五霸者摟諸侯 東急本作五霸者摟(諸)侯。

敬老愛少 京大本東急本少作小。忽忘忽也 東急本作忽

(忘)忽(也)。今諸侯皆犯之 東急本今作命。〈章指〉

衰轉 東急本作(衰)轉。博思古法 京大本作(博)思古

法。

○魯欲使慎子至志於仁而已

故曰我所 東急本無曰字。故言守宗廟 東急本作故言(守)

宗廟。其必見損也 成簣堂本必作心。但取彼与此 京大

本成簣堂本但作且。〈章指〉既其用兵 各本既作賤。廟勝

京大本廟作廟。

○孟子曰今之至不能一朝居也

今之事君者曰 東急本作今之事君者(皆)曰。

為民賊傷民 京大本賊下又有賊字。東急本成簣堂本賊下補

賊字。

是輔桀也 東急本作(是)輔桀也。

〈章指〉以往其余 東急本往作養。

○白圭曰至大桀小桀也

万室之邑 各本邑作国。

二十而取一 成簣堂本作二十取◎而一。欲效夷貉 成簣堂

本效作効。夷貉為大貉子 東急本大作太。△章指▽裔土簡

惰 東急本成簣堂本土作王·京大本土作王。※土正作

○孟子曰君子不亮惡乎執

將安執之 東急本作將安執之執之(耶)。△△△章指▽論語曰

東急本無語字。民無信 東急本作民無(信)。

○魯欲使樂正子至国欲治可得乎

將輕千里而 成簣堂本作將(輕)千里而。

佗人之言 各本佗作他。訑訑者自足 東急本訑訑作馳馳。

面諛之人居国 東急本作面諛之(人)。

欲治可得乎 東急本作欲(治)可得乎。

△章指▽答之而拜 京大本而作而。※以正作吐之 京大本吐作吐。距正作

漉漉 京大本東急本漉字作灑。

○陳子曰至免死而已矣

矜其困而 京大本困作困。※困正作成簣堂本困作困。窮餓 京大

本鐵作鐵。鐵正作故不言去 成簣堂本去作天。去イ△章指▽備此

東急本成簣堂本備作漏·京大本備作漏。※漏正作三科 東急本科作

斜·京大本科作科。利正作

○孟子曰舜發至而死於安樂也

築傅巖 京大本巖作岩。管夷吾 各本作管仲。囚執於土官

東急本囚作困·成簣堂本囚作困。囚イ隱於都市而以為相也 各

本市下有穆公拳之於市六字。見而怪之 東急本作見而怪

之。發於声而後 東急本作發於声而後而後。荒忽 各本忽

作怠。怠惰 京大本惰作惰。※慢正作△章指▽困窮 東急本作困

(窮)。其慮 京大本慮作慮。※意正作凡人 京大本凡作凡。※此正作

賢愚之敘也 京大本叙作叙。※教正作

○孟子曰教亦多術矣

屑絮也 成簣堂本絮作潔。△章指▽而已 京大本作而。※則正作

※也正作

孟子卷第十二 東急本作点校重言音註孟子卷第十二·成簣堂本

作音注孟子卷之十二。

孟子卷第十三

尽心章句上 各本無趙氏注三字·京大本尽心章句上下有凡四十

六章·東急本尽心章句上下有凡四十一(五)章·東洋本尽心

章句上下有凡四十六章·成簣堂本尽心章句上下隔五格有凡

四十六章

○尽心章句上

可否 成簣堂本作否可。下上 拱之 成簣堂本拱作共。京大本東

急本拱作共。曰存其心 東急本曰作曰。荷イ

○孟子曰其至所以立命也

則知天也 京大本東急本東洋本也作矣。

○孟子曰万物至求仁莫近焉

此最為近 東急本成簣堂本近作樂。近イ

○孟子曰行之而不著焉

△章指▽達之以為道 各本無以字。凡夫用之 京大本凡作

凡。人正作

○孟子曰人不至無恥矣

無恥之恥 東急本作無恥(恥)。

○孟子曰恥之至何若人有

於廉恥之心 東急本作於△於廉恥之心。△章指▽愧不及

成簣堂本無愧字。

○孟子曰古之至得而臣之乎

忘人之勢 成簣堂本作忘◎之勢人。

各有方 各本万作方。△章指▽下賤之義也 京大本作下賤

之義也。※正無正無正無 動心之分京大本作動(其)心正無正無之分。

○孟子謂宋句踐至兼善天下

獨治其身 東急本治作亡。治イ

○孟子曰待文王而後興者

無異知者 京大本異作自。※音作異 東急本異作異。成簣堂本異作

異。能自興 東急本作能自(興)。守身 東急本作守(其)

身。△章指▽不辟邪 京大本作不辟邪。※邪僻正作 君子特立 成簣

堂本特作時。

○孟子曰以佚道至不怨殺者

佚道 京大本成簣堂本佚作迭。東急本後作迭。佚

趨農 京大本趨作趨。雖勞後得 成簣堂本後作役。

○孟子曰霸者至豈曰小補之哉

大法 東急本大作天。大イ △章指▽浩浩 京大本作浩浩。※諱正作 同

道 京大本作同道。※流正作

○孟子曰仁言至善教得民心

△章指▽趨君命 京大本趨作趨。

○孟子曰人之至達之天下也

二三歲 東急本作二三歲。三二 良能良知也 東急本作(良能)

良知也。

○孟子曰舜之至莫之能禦也

從之見 東急本從作定。從イ 若江河之 東急本作若江△之江河之。

△章指▽潛隱 京大本作潛※正無（隱）。辟若神龜 京大本辟作※潛藏正作。小同 京大本作小※正無同、傍有校語謂音積小同作藏用。

○孟子曰無為其所不為先イ 以身況之 東急本況作況。

○孟子曰人之至深故達

德慧術知 各本知作智。

故能成德 東急本作欲故能成德。△章指▽難正 京大本難※五正作作難。沈溺 東急本作沈溺△。

○孟子曰有事至而物正者也

△章指▽此四科 東急本作（此）四科。成簣堂本科作利。優劣之差 京大本差下有也字。東急本作優劣之差差△。

○孟子曰君子至不與存焉

不得與此三樂 京大本作不得（與）此三樂。又不作人 東急本作（不）作人。△章指▽能之 東急本能作前。京大本能作前※能正作。過萬乘 京大本過作過※過正。重焉 京大本焉作焉※為正。再云也 京大本作再云（者）也※正。

○孟子曰広土至不言而喻

謂性仁義也 東急本作（乃所）謂性仁義也。

見於面 東洋本於作其。成簣堂本作見（其）イ於面。

施於四体 東急本作（施）於四体。

而知之也 各本無之字。△章指▽內充 京大本作內※正ナ（外）充。四支 京大本支作支※体正作。其不 京大本作其（所）不※正ナ。

○孟子曰伯夷至此之謂也

使養其老 成簣堂本作使◎其養。

養老者耳 東急本耳作目。耳イ△章指▽使不凍餒 京大本無凍字。成簣堂本作使不餒（餒）イ。自託 京大本託作託※已正作。亦斯類也 京大本作亦斯類也。※又正作

○孟子曰易其至有不仁者乎

如水以而民 京大本東急本而作則。東洋本成簣堂本而作則。而イ

○孟子曰孔子至不成章不達

科飲也 東急本科作利。成簣堂本飲作坎、滿飲之飲字做此。飲イ

○孟子曰鷄鳴而起

△章指▽好利 東急本作好（利）。

○孟子曰楊子至而廢百也

重權 京大本權作權※輕音積本作。△章指▽所在 京大本作所※

在（也）。

○孟子曰飢者至不為憂矣

猶為君子 京大本作猶（為）君子。△章指▽何憂 京大本

作何憂(也)※

○孟子曰有為者

△章指▽論之一簣 各本之作語。

○孟子曰堯舜至其非有也

五霸若能 各本若作方、東急本若作方。若イ△章指▽性体其次

京大本作性体※(而行仁本性之自然也)其次。※已下正無

○公孫丑曰至則寡也

伊尹曰 東急本尹作君。尹

有伊尹之志 東急本尹作君。尹

大臣 各本大作人。△章指▽放惡 成簣堂本放作放。於イ志異

成簣堂本志作忠。生篡心也 京大本作生篡心※正無(生)※正作也。

○公孫丑曰至孰大於是

保其尊榮 成簣堂本保作祿。保イ東急本保作祿。保イ△章指▽謂也

東急本成簣堂本無也字。京大本作謂※(也)。

○王子墊問曰至大人之事備矣

用志也 東急本志作士。志イ志之所尚 各本無之字。所當居

東急本作所當(居)。△章指▽志於善也 京大本志作志。※正無

○孟子曰仲子至奚可哉

而弗受人皆 東急本弗作不。弗イ

不辯礼義 京大本辯作辨。以其不廉 各本不作小。△章指▽有大小 各本大小作小大。

○桃応問曰至樂而忘天下

躡草履 成簣堂本作(躡)草履。為貴也 東急本作為至貴

也。成簣堂本作為(至)貴也。△章指▽趨將 京大本成簣

堂本趨作趨。聖意也 京大本作聖意※(□)也。

○孟子自范之齊

謂諸弟子 京大本東急本無諸字。豈非是人之子也 京大

本豈作皆。東急本成簣堂本豈作皆。豈イ

○孟子曰食而弗愛豕交之也

不可虚拘 京大本成簣堂本可下有以字。東洋本可下有以字。△東

洋本可下有以字。イナシ

△章指▽言敬愛也 各本言作謂。

○孟子曰形色天性也

不言居色主名 京大本東急本色主名作而言踐。成簣堂本色

主名作色主名。而言踐イ

○齊宣王至弗為者也

猶愈於已乎 京大本作猶(愈)於已乎。

愈於止 京大本止作已。△章指▽其日 京大本日作日。※月正作

○孟子曰君子至所以教也

有答問 東急本作(有)答問。

△章指▽教人之術 東急本人作之。聖所不倦 京大本作聖

人(所)不倦。東急本成簣堂本所作人。誨人乎 京大本作

誨人(者)乎。

○公孫丑曰至能者從之

高矣美矣 東急本作高矣美(矣)。

大高遠 各本大作太。也君子謂於射 成簣堂本作◎君子謂

於射也。

○孟子曰天下有道

以道殉身 京大本作(以道)殉身。

△章指▽顧守 京大本顧作顧俗音義。

○公都子曰至滕更有二焉

夫子不答 東急本夫作天。有故旧之好 東急本作(有故)

旧之好。△章指▽貴乎 各本乎作平。

○孟子曰於不可已而已者

使無罪 東急本使作使使。必速矣 成簣堂本作必速(矣)。

△章指▽刑濫 東急本刑作州。何後之有 京大本作何後

(行)之有。

○孟子曰君子至仁民而愛物

不知人仁 京大本成簣堂大知人作加以。東急本知人作加以。

仁之而弗親 東急本作仁(之)而弗親。

族類 東急本類作類親。△章指▽各有所施 東急本作各(有)

所施。

○孟子曰知者至謂不知務

愛賢也 東急本作愛(其)賢也。不二三 東急本作不二三。

是之謂 東急本作是之之謂。

若此之類也 東急本作(有若大飯長歡而問無齒決)若此之

類也。△章指▽賢大化 京大本賢作賢正無。隆道 東急本隆作

隆。

孟子卷第十三 成簣堂本作音注孟子卷之十三。

孟子卷第十四

孟子卷第十四

尽心章句下 各本無趙氏注三字。京大本東洋本尽心章句下下有

凡三十八章。東急本尽心章句下下有凡三十九章。成簣堂本

尽心章句下下隔五格有凡三十八章。

○孟子曰不仁至及其所愛也

不仁之政加於所不 東急本作不仁之政加於所不仁之政加於

所不。有災傷加所愛之臣民 京大本加所愛作所親愛·成實堂本加所愛作所(親)愛·東急本加所愛作(加)所親愛。

公孫丑曰何謂也丑問及所愛之狀何謂也 東急本此十七字後補。

〈章指〉發政施仁 京大本作發(政)施仁。著此魏王 京大本作著(此)魏王。※正ナ

○毫子曰春秋無義戰

戰伐之事 東急本作(戰)伐之事。拳毫毛之善 京大本毫

作豪。織芥 成實堂本芥作介。不得其正 成實堂本正作王。正イ

〈章指〉以文 京大本作文。之正ナ 誅討不 京大本作誅討(故)。※正ナ

不。故曰 京大本故作。※正無

○孟子曰盡信書則不如無書

血之流杵也 東急本作血之(流杵也)。

帝清問 東急本作皇帝清問·成實堂本作(皇)帝清問。天

不能問民 東急本問不有於字·成實堂本作不能問(於)民。イ

梓材曰 成實堂本材作林。材イ 逸書之篇名 東急本作(逸書)

之篇名。誅討 成實堂本誅討作(討)誅。迎其師 東急本

其下有王字。則不取也 東急本取下有之字。〈章指〉文之

有美 京大本作文之有美。※正無 二三而已 京大本作二三(策)。※正ナ

而已。

○孟子曰有人至焉用戰

征北夷 東急本夷作夷。狄イ 成實堂本夷作夷。狄

遲願見征 京大本遲作遲。速イ 東急本作遲(願)見征。虎賁綴

衣趣馬 京大本綴作贅。※綴イ 東急本成實堂本綴作贅·成實堂本

趣作取。趣イ 安正爾也 京大本東急本正作止。犀至地稽首 各

本作額角犀厥地稽首。各欲令武王 東急本作(各)欲令武

王。〈章指〉厥角 京大本厥作厥。○崩イ

○孟子曰梓匠輪輿

雖得規矩不以成器也 東急本作雖得規矩之法亦不能成器也

蓋喻人不志雖誦典書不能以善。〈章指〉惟度 京大本惟作

惟。※唯

○孟子曰舜之飯糗茹草也

果待也 東急本作果(待也)殆也。イ 茹草 東急本茹作茹。

及為天子 東急本及作反。〈章指〉虞舜所隆 京大本作虞

舜所隆。※正無降正ナ

○孟子曰吾今而後知殺人親之重也

与自害其親 京大本害作害。○殺イ 東急本害作殺。

○孟子曰古之為閔也將以禦暴

譏閉非常也 京大本閉作問。※音作閉 成實堂本閉作問。〈章指〉

脩理 京大本脩作儻・(東急本)脩作儻。非其式程 京大本式程作式程。※程式正作載之也 京大本載作譏。正作

○孟子曰身不行道不行於妻子

道德而欲使人行道德 東急本作道德(而欲使人行道德)。

妻子不肯行 成簣堂本妻上補雖イ字。效使人 東急本作效

(欲)使人。況於他人者乎 東急本無於字・京大本作者。○イ無

○孟子曰同于利者凶年不能殺

△章指▽蹈姦 各本姦作姦。

○孟子曰好名之人能讓十乘之國

子臧 京大本成簣堂本子臧作子臧・東急本子臧作伯夷。子臧季

札之儔是也 東急本儔作類。控イ成簣堂本儔作儔。簞飯 京大

本飯作食・東急本飯作食・成簣堂本飯作飯。食イ鄭子公 東急

本作鄭公子。鮒羹 京大本鮒作鮒・東急本鮒作鮒。※元韻

○孟子曰不信仁賢則國空虛

財用不足 東急本作財用有所不足故也。△△

○孟子曰不仁而得國者

得天下 京大本作得天下者・東急本作得天下者・東洋本作得天下者。イ本アリ成簣堂本作得天下(者)。

得國 東急本作(得)國。謂若象 東急本作謂(若)象。

有土 東急本作有土。土不得有天下也 東急本也作焉。也△章指▽処之 成簣堂本処作取。処イ

○孟子曰民為至則變置社稷

諸侯封以為大夫 各本封作能。

既絜 東洋本成簣堂本絜作潔。

變置社稷 京大本作變置(社稷)。

絜精 京大本作絜絜精。春秋之時 東急本作春秋之(時)。

毀社稷而 東急本作(毀)社稷而。更置也 京大本作更置

(之)也・東急本也作之。

○孟子曰聖人至況於親象之者乎

柳下惠之厚 各本厚作和。

百世之下 東洋本作百(世)之下。

況於 東急本作(況)於。

踰聞 京大本踰作論。※論東急本踰作踰。況親見薰炙者也 京

大本東急本況下有於字、見下有而字、炙下有之字、也作乎

・東急本薰作薰。イ

○孟子曰孔子之去魯遲遲吾行也

說已見上篇 京大本成簣堂本作注義見万章下首章・東急本

篇下有言矣此不復說焉七字。△章指▽遠逝 東急本遠作連。

○孟子曰君子之居於陳蔡之間

君子之道 京大本無之字。孔子乃尚 京大本作孔子(乃)

尚。交接 京大本作(交)接。

○貉稽曰至文王也

大不賴人之口如之何 東急本不作文、賴人不有賴人二字、

何下有也字。為士者益多口 東急本作仕者亦益多口。邶風

東急本邶作邶。小人聚 東急本聚作聚。〈章指〉衆口衆口

(東急本)不重衆口二字。善聲問也 東急本也作之。

○孟子曰賢者以其昭昭使人昭昭

昭昭明於道德 京大本道德作道(德)·東急本作昭(昭)

明明於道德·成實堂本昭昭作昭。躬化之道 京大本化作

化·東急本化作行。欲使他人昭明 東急本作欲使(他)人

昭明。

○孟子謂高子曰山徑之蹊

山之領 京大本領作嶺。為間有間也 東急本上間作間。遂

行之而反中止比 東急本作遂行之(而)反中止正。〈章指〉

塞明為善(東急本)無善字。

○高子曰至兩馬之力与

尚貴声乐 東急本作尚(貴)声乐。

曰以追蠡 東急本此四字及注三十九字係後補。

擊齧 成實堂本擊作擊。蠡 京大本作(蠡)蠡。東急本

不重蠡字。也文王之鍾 成實堂本作(也)此文王之鍾。先

代之樂 東急本先作堯。切深 京大本切作切。

○齊饑陳臻曰至其為士者笑之

復饑 成實堂本饑作饑。有勇名也 東急本作有(勇)名也。

走而迎之 東急本作走而迎(之)。人欲復使我 各本人作

今。發棠 東急本棠作棠。〈章指〉凶言 京大本凶作凶。

猶若(東急本)無若字。暴虎 京大本虎作虎。

○孟子曰口之至不謂命也

音声 東急本作五音(声)。四枝四枝解倦 京大本枝字共

作肢·東急本下枝作肢。解作懈。触情徒欲 東急本触作有。

求可樂 東急本樂作身。不謂性 東急本作不謂之性。

知之於賢者也 東洋本知作智·東急本知作知·成實堂本知作知。

好礼敬 各本礼下有者得以礼四字。任天而已 東急本任作

在。庶幾聖人 成實堂本作庶幾(聖人)。

○浩生不害問曰至四之下也

不可知之 各本之下復有之字。

己之所欲乃 京大本所作可·東急本所作可。不意不信也

各本意作億。△章指▽応下一科 京大本下作正正作。

○孟子曰逃墨至又從而招之

歸於楊逃楊 東急本作歸於(楊逃)楊。

無親疏之別 京大本疏作疎。莖蘭 京大本蘭作闌、以下倣

之・東急本蘭作欄、以下倣之。從而罪之 東急本罪作非。

△章指▽正斯可矣 京大本正作正無。不綏 京大本綏作綏。

以為過也 (東急本) 無以字。

○孟子曰有布至而父子離

国有軍旅 京大本作国(有)軍旅。布軍卒 京大本成簣堂

本卒作率。軍糧也 東急本糧作糧。斯養 京大本東急本斯

作廝・成簣堂本斯作斯。分崩 成簣堂本崩作崩。

○孟子曰諸侯之宝三

鄰国不犯 東急本作(鄰国)不犯。民不離散 東急本民作

居。布其惠政 東急本布作而。和民之璧 各本民作氏。隋

侯 東急本侯作氏。△章指▽永無患 京大本永作水。

○盆成括至殺其軀而已矣

括名也 東急本也作地。去後仕 成簣堂本作去後(仕)自。

△章指▽終吉 京大本吉作言。成簣堂本吉作吉。

○孟子之滕至斯受之而已矣

孟子舍止 東急本止作上。問之過 各本過下有也字・東急本門作門。

夫子之設科也 京大本子作子・東急本子作子。成簣堂本子

作子・東洋本子作子。

館人言 東急本作館人(言)。謙以答之 東急本答作益。

之下有而已二字。

○孟子曰人皆至穿踰之類也

義不可勝用 各本用下有也字。人所爾汝者 東急本作(人)

所爾汝者。可与言者 東急本無者字。△章指▽善恕 京大本

恕作怒。善亦遠矣 京大本作善亦遠矣。

○孟子曰言近至自任者輕

不下帶而道存 東急本補而字。

大可以施 成簣堂本作(大)可以施。不下帶 東急本帶下

有而道存焉四字。舍身不治 東急本作(舍身)不治。欲責

人治 東急本治下有是字。求人大重自任大輕 各本大二字

共作太。△章指▽言言道之 東急本不重言字。妄云言 京

大本妄作安。

○孟子曰堯舜至以俟命而已矣

加善於民 東急本民下有也字。行其節邪 各本節下有操自

不回四字。待命而已矣。東急本作行命以待之而已矣。

○孟子曰說大至吾何畏彼哉

大人謂 京大本成簣堂本無謂字。說此大人之法 東急本作

說(此)大人之法。言語得尽 東急本尽下有而已二字。高

堂 東急本作堂高。振屋數尺 京大本振屋作振屋。東急本

振屋作橫題。振屋。奢汰之室 東急本汰作大。

數尺我得志 京大本志作心。

方一丈 京大本無一字。馭騁 京大本騁作聘。騁。從車千乘

京大本從作後。東急本從作後。從。章指 \vee 咎也 京大本作咎

也。正無。宝玩也 成簣堂本作宝玩(也)。

○孟子曰養心至雖有存焉者寡矣

欲欲利也 京大本東急本作欲利欲也。雖有少欲 東急本作

(雖)有少欲。晉樂繫之類也 東急本晋下有国字、繫作厭

黑。繫。不存者衆也 東急本作不考者衆(也)。存。章指 \vee 清

靜 京大本靜作靜。濟。東急本靜作濟。

○曾皙嗜羊棗至名所独也

父没之後惟念其親不復食羊棗 東急本惟作唯。成簣堂本此

十三字係後補。羊棗孰与膾炙美也 京大本東急本作羊棗与

膾炙孰美也。故諱之也 東急本作故諱(之)也。章指 \vee

情礼 京大本礼作理。礼。成簣堂本礼作理。

○万章問曰至斯無邪慝矣

吾党之士 東急本土作小子。士才

孔子居陳 東急本居作在。居。吾党之士也 東急本作吾党之

(士)也。思魯之狂士也 東急本土下有者字。

獯者 東急本獯作獯。獯

獯者 東急本獯作獯。故思之 各本之下有也字。以狂獯

東急本獯作獯。成簣堂本作以狂狂獯。子張也 東急本作子

(張)也。僻故 東急本作(僻)故。

不絜之士 東洋本成簣堂本絜作潔、成簣堂本注文絜字做之、唯

不絜之絜字作絜。

恥賤汙行 東急本汙作惡。汙

其惟鄉原乎 東急本作其惟鄉原(乎)。

獨鄉原 京大本作独鄉(原)。以其賊德故也 東急本其下

有鄉原二字。鄉原之惡云何 京大本東急本云作如。成簣堂

本云作云。如。何以是膠膠 東急本作(是)膠膠。章

万子 東洋本子作章。成簣堂本子作子。

合乎汙世 東洋本汙作汙。汙

廉絜 東洋本成簣堂本絜作潔、成簣堂本注文絜字做之。

孟子言鄉原之人 京大本成實堂本言作曰。若似忠信行其身
 東急本無此七字。無德而人 東急本作無(德)而。故曰
 德之賊也 東急本作(故)曰德之賊也。似真而非真者 成
 實堂本上真作真真イ。似朱朱赤也 成實堂本作似朱(朱)赤也。
 衆民興 東急本無衆字。△章指▽率而正 京大本而作以。
 敢不正也 京大本作敢不正正ナ(謂)也。

○孟子曰由堯至則亦無有乎爾

亦得与在 東急本作亦得(与)在。佐行之 東急本佐上有
 輔字。變故衆多 東急本變作言変。有勇謀 京大本勇謀作謀
 勇。相配而言之也 成實堂本配作酬配イ。猶可必備名世 東急
 本必作廉必イ。△章指▽建始 京大本建作建更正作。弘析 京大
 本析作析音釈作析。成實堂本析作析析イ。班垂文采 京大本作班垂
 文采正無正無。有遇不遇 京大本作有遇有不遇。以無有乎 京大本
 作以無有正無亦正作。趣也 京大本作起也音作趣也。成實堂本趣作起。

孟子卷第十四 成實堂本作音注孟子卷之十四。

孟子篇叙

孝道之本在於情性 京大本無之字、在字後補。主於心 京
 大本主作至主イ。終於尽心也 京大本無於字。璿璣 京大本

璿作璇。故取其三時三時者 京大本作故(取)於三時三時イ者。四百八十六章章次大小 京大本章章作章章*。
 亦無所法也 京大本作亦(無)所法也。六藝之文義 京大
 本作六藝(之)文義之*。

旧鈔本趙注孟子校記(一)訂正

- 二八一頁上一五行、↓。
- 二八七頁上一行 倭↓倭倭イ
- 同 二行 此↓此此イ
- 同 七行 八本↓八行本
- 二九三頁上八行 強↓疆
- 同 九行 三字。↓三字。各本疆作強。
- 二九四頁下八行 王之不好勇也↓不亦宜乎
- 同 一二行 時竜↓時 竜
- 同 一八行 苦作言。古聖賢之比↓
 苦作言。△改行▽

(低四格) ○齊宣王問曰至王之不好勇也
 (低二格) 古聖賢之比 元良本…
 二九六頁上四行 伊佐早安本↓伊佐早本

二九九頁上一〇行 以小王大夫↓以小王夫

同 一一行 大主小夫↓大主小、以小^王至大夫↓以小^王至

大

三〇〇頁上三、四行中間插入△○滕文公問曰至於斯二者▽

十二字

三〇三頁下四行 世·賢↓世、賢

同 一三行 ○孟子↓○孟子曰

三〇四頁上二行 ○孟子↓○孟子曰

三〇八頁上八行 諫争之官也 元良本竜谷本伊佐早本八行

本争作諍。此二十二字移入於九行孟子言

人去五字之上

同 上二〇行 去二十一字↓二十字

三〇九頁上一九行 大夫↓丈夫

三一頁下一八行 下以為俗 伊 此五字改行移入於次行低

二格

同 一九行 帥作帥↓帥作師

三一二頁上一、二行中間插入△○竜子曰治地至在君与子

矣▽十二字

同 一六行 乎溝壑↓溝壑

三三〇頁上一八行 孟子曰↓孟子曰言

三三五頁上五行 倣此↓倣此

三三六頁上一〇行 齋慄↓齋慄、慄作粟↓慄作粟

三三九頁下三行 万章↓万章曰

三四〇頁上一七行 尊賢者↓尊賢者也

三四五頁上二行 把以一手至而養之 此二十三字改行移入

於次行低二格

三四七頁上一六行 敝也↓蔽也

三五九頁下七行 妻子不肯定行↓妻子不肯行

同 八行 妻子不肯定行↓妻子不肯行

一二行 好名人↓好名之人

三六二頁下一〇行 其軀↓其軀而已矣

三六三頁上一五行 孟子↓孟子曰

同 下一行 孟子曰↓○孟子曰

同 下三行 加美↓加善